

ふるさと上越ネットワーク会報

NO.31 2011.8



巻頭言

東京農業大学教授

藤本 彰三

ルを再開発して有機農場経営を開始した。当地の特異な自然生態系を活用して環境と健康に優しい食料を生産し、高付加価値農業を実現するには有機農業が最適と考えたからである。幸いにも弊社が取組みは全国評価を受け、本年五月に第三回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業で全国農業会議所会長賞を受賞した。耕作放棄地の更なる再開発の決意を新たにした次第である。

上越市農政の基本計画にあるように、当地域ではハサ掛けが今日でも一般的に行われている。上越市内には他にも中山間地が多い。昔ながらの農業を「自然特性を生かした産業」に発展させるには、まずは耕作放棄地を再開発して自立できる農業経営の確立が必要である。そのためには多くの消費者の支援が不可欠である。

(ふじもと あきみ 上越市原町出身)

山間農業地域とは「林野率が八十%以上、耕地率が十%未満」、中間地域とは「平地農業地域と山間農業地域の間的な地域で、林野率が五十〜八十%、耕地は傾斜地が多い」地域と定義されている。全国で約千七百市町村が中山間地に該当し、総耕地面積の四割が位置する。つまり、中山間地域は食料生産の重要な担い手である。グリーンツーリズムなど、中山間地の効用は農業生産に限定されない。たしかに里山を背景にした山間地農村は美しく、日本の原風景ともいえる。

しかし、現実には広範な中山間地が苦悩している。次世代の担い手が市街地へ移り住み、農業だけでなく農家そのものの後継者が不足し、過疎化が進み、農民は高齢化し、農村機能の維持も難しい状況だ。政府は直接支払制度によって支援しているが、問題は解決できていない。全国三十四万ヘクタールの耕作放棄地のほとんどは中山間地に位置している。放棄された棚田は美しい景観とは

いえない。

上越市の面積は十万ヘクタール弱で、その十八%が耕地、五十六%が森林面積である。この二つの数値から上越市は中間農業地域に位置することになる。上越市の食料農業農村基本条例では、農業地帯を市街化地域、田園地域および中山間地域の三つに地域区分し、中山間地域では環境保全、災害防止機能を強化させ、棚田ではハサ掛け米など自然特性を生かした産業を促進することを通じて国土保全を図るとしている。

東京農業大学は、学術フロンティア研究において平成十七年から桑取谷浜地域で有機栽培実験を行い、研究成果の実用化と地域振興を目指して、平成二十年四月に株式会社じょうえつ東京農大を設立した。もちろん地元農業者、産業界、大学教授職員や校友など実に多くの方々の協力があつて始めた壮大な社会貢献事業である。当地域には多くの耕作放棄地が存在しており、弊社は十ヘクタ―



平成二十三年年度 総会報告

五月二十八日（土）、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区九段）で八十名を超える参加を得て平成二十三年度「ふるさと上越ネットワーク」総会が開催されました。

小坂恵美さん司会のもと、和久井会長の挨拶に続き、村山秀幸市長から市政報告を頂きました。規定により会長が議長を務め、平成二十二年度の事業報告と決算報告、平成二十三年度の事業

計画と予算、役員の改正の五議案が審議され、いずれも承認されました。

Jネット運営が二十一年度より全て市より運営委員会に移管されたことにともない、事業報告は運営委員の岡村普さんが担当しました。

市役所より村山市長、自治・市民環境部共生まちづくり課の木村雄二課長と太田貫治係長に参加いただきました。



村山秀幸市長の市政報告



小坂恵美さんの司会



岡村普さんの事業報告



和久井会長の議長挨拶で審議スタート

議事と事業内容

◇議事（五議案承認されました）

- 第一号議案 平成二十二年事業報告
 - 第二号議案 平成二十二年決算報告
 - 第三号議案 平成二十三年事業計画
 - 第四号議案 平成二十三年予算
 - 第五号議案 役員の改選
- 理事 大沢 実様逝去のため退任

◇平成二十三年事業計画内容

- 一 会員募集事業 目標会員数七〇〇人
- (一) 新規会員の募集

- ・各区郷人会等への働きかけ（Jネット）
- ト開催事業への参加案内
- ・役員、運営委員などによる定期的な勧誘活動の実施

- ・高校同窓会への勧誘活動（総会時のチラシ配布と同窓会名簿への広告掲

載）

- ・上越市内の大学卒業者にチラシを配布
- ・上越市内での会員募集（会員とふるさととの交流を盛んにするため）
- ・「たより」送付時に新会員紹介のお願い文と返信用葉書を同封
- (二) 平成二十二年会員の継続加入の推進と元会員への再入会依頼
- (三) 会員のメリットとなる施策検討

- ・ヨシハシグループのお店の割引
- ・御徒町「吉池ホテル」の割引実施
- ・「吉池」関連の飲食店の割引（交渉中）
- ・「ふるさと新潟応援団」の応援店舗（関東で82軒）との交渉検討
- ・上越のお店の割引制度の検討
- (四) 年会費の定義

- ・年会費の定義が年度単位であったため、途中入会の会員間に不平等

が生じたり、12月の割引会費のみを継続するなどの不具合があるため、会費の適用範囲は入会した日から一年間とする。

(五) 家族会員

- ・これまでご夫婦で会員になっておられるケースもあるが、同居の家族については申請があれば家族会員として登録し、会費は無料とする。会員証の発行や大使の名刺、Jネット市場での買い物などは正会員と同様とする。

二 広報事業（上越市の紹介）

- (一) ふるさとからの便りを会員宛に毎月一回送付
- ・「広報じょうえつ」一日号、十五日号（広報の送付を希望する会員にのみ送付）
- ・上越市やJネットの情報を提供する
- ・「たより」の発行

- ・会員の近況を紹介する
- ・「お元気ですか」の発行
- ・イベント情報チラシ、特別賛助会員からのお知らせなど送付
- (二) 「Jネット会報」の発行：年二回発行（七月、十二月）
- (三) 「ふるさとカレンダー」二〇二三年（版）の発行：十一月

- (四) ホームページの更新

・ホームページを新しいフォームに改善。

・定期更新し、総会やふるさと市場などの情報を掲載。

・メルマガ作成やフェイスブック等への参加検討。

三 交流事業を実施

- (一) ふるさと交流会の開催
- ・春の交流会
- 平成二十三年四月十四日（木）
- 〜十六日（火）に実施
- 高田公園近くの「なかしま食堂」で観桜会のほか、上越市の名勝負見学
- ・秋の交流会
- 平成二十三年十月下旬に開催予定

- (二) Jネットサロンの開催
- ・名古屋サロン（十月予定）
- ・名古屋サロン（十月予定）
- 参加者一人あたり千円をJネットが助成。お土産の検討。
- ・近畿地区大阪サロン（十二月予定）
- 参加者一人あたり千円をJネットが助成。お土産の検討。
- ・東京地区サロン

- 毎月開催（第二水曜日午後五時三十分〜七時、運営委員会事務局で開催）
- (三) 勉強会の開催
- ・年二回程度、主として上越市にゆかりのある施設等を見学、但し、会員の交流の為、見学施設を限定しない。

平成23年度 ふるさと上越ネットワーク予算

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

■収入 (単位:円)

科目	平成23年度 予算額	平成22年度 決算額	差引増減	予算額内訳
会費	2,286,000	2,143,500	142,500	<ul style="list-style-type: none"> ・個人会員 (3,000円) 1,530,000 ・個人会員 (2,900円ほか) 406,000 ・賛助会員 350,000
負担金	2,049,000	2,216,000	△ 167,000	<ul style="list-style-type: none"> ・総会参加者 350,000 ・文化講演会参加者 350,000 ・春のふるさと交流会参加者 254,000 ・秋のふるさと交流会参加者 400,000 ・名古屋・近畿・東京サロン 655,000 ・勉強会 20,000 ・ふるさと越後大使 20,000
交付金	5,000,000	5,000,000	0	・市交付金
通信販売	200,000	181,480	18,520	
繰越金	438,730	1,273,228	△ 834,498	
雑入	220,500	142,942	77,558	<ul style="list-style-type: none"> ・預金利子 500 ・ふるさとカレンダー、他 220,000
合計	10,194,230	10,957,150	△ 762,920	

■支出 (単位:円)

科目	平成23年度 予算額	平成22年度 決算額	差引増減	予算額内訳										
広報事業	2,580,510	2,753,512	△ 173,002											
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%;">会員募集事業</td> <td style="width: 10%;">186,210</td> <td style="width: 10%;">289,744</td> <td style="width: 10%;">△ 103,534</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・広告、会員募集チラシ 120,000 ・通信運搬費 10,000 ・会員証印刷代 56,210 </td> </tr> <tr> <td>広報事業</td> <td>2,394,300</td> <td>2,463,768</td> <td>△ 69,468</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・市広報購入費 257,600 ・会報(年2回)、カタログ作成 586,000 ・ふるさとカレンダー印刷 500,000 ・定期郵便物配送料 730,700 ・封筒他印刷 20,000 ・消耗品・通信運搬費ほか 300,000 </td> </tr> </table>	会員募集事業	186,210	289,744	△ 103,534	<ul style="list-style-type: none"> ・広告、会員募集チラシ 120,000 ・通信運搬費 10,000 ・会員証印刷代 56,210 	広報事業	2,394,300	2,463,768	△ 69,468	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報購入費 257,600 ・会報(年2回)、カタログ作成 586,000 ・ふるさとカレンダー印刷 500,000 ・定期郵便物配送料 730,700 ・封筒他印刷 20,000 ・消耗品・通信運搬費ほか 300,000 				
会員募集事業	186,210	289,744	△ 103,534	<ul style="list-style-type: none"> ・広告、会員募集チラシ 120,000 ・通信運搬費 10,000 ・会員証印刷代 56,210 										
広報事業	2,394,300	2,463,768	△ 69,468	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報購入費 257,600 ・会報(年2回)、カタログ作成 586,000 ・ふるさとカレンダー印刷 500,000 ・定期郵便物配送料 730,700 ・封筒他印刷 20,000 ・消耗品・通信運搬費ほか 300,000 										
交流事業	2,117,095	2,220,180	△ 103,085	<ul style="list-style-type: none"> ・春のふるさと交流会 457,095 ・秋のふるさと交流会 600,000 ・名古屋・近畿・東京サロン 980,000 ・勉強会 80,000 										
ふるさと支援事業	1,069,400	1,208,247	△ 138,847	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会事業 730,000 ・ふるさと大使事業 39,400 ・通信販売 285,000 ・消耗品・通信運搬費ほか 15,000 										
総会開催事業	990,000	852,671	137,329	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会 40,000 ・総会 500,000 ・懇親会 450,000 										
事務費	3,437,225	3,483,810	△ 46,585	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費、交通費 2,000,000 ・運営委員会事務局費 960,000 ・運営委員交通費助成 300,000 ・会費手数料、郷人会、通信他 177,225 										
次期繰越金	0	438,730	△ 438,730											
合計	10,194,230	10,957,150	△ 762,920											

総会後のアトラクション

総会後のアトラクションは、上越市大豆出身、各地で活躍のマジシャン・カズ（本名石田一裕）さんの多種にわたる手品と大がかりなマジックショウを楽しみました。

カズさんは各種のイベントを企画するアートフアクトリー・カズ㈱を経営する事業家でもあります。五年前にもマジックを披露して頂き、今回は二度目になります。東日本大震災の被災者の皆さんに、ボランティアでマジックを披露し、多くの人に元気を与えておられます。私たちも彼の無償の努力に対して出来る限りのカンパをさせて頂きました。カズさんのアシスタントとして、南高田在住でJネット会員の和栗由美子さんが参加してくれました。

マジックの後には、部屋を替えての懇親会です。

松川副会長の挨拶、榊原相談役の挨拶、市役所から共生まちづくり課長木村雄一さんの挨拶を頂きました。又郷人会代表として浦川原会の小管会長、㈱じょうえつつ東京農大の藤本社長から上越市とJネットの対する激励を頂きました。

次は待ちに待った乾杯です。音頭は、地元と大いに関わりのある信越化学㈱常務取締役の高杉さんです。少し遅れてお越しの初代会長の佐久間さんの挨拶もいただきました。上越地方の美酒、特別取り寄せた箱入りの謙信汁などなど、故郷を思い出させるお持て成しを用意しました。

写真で会の様子をご覧ください。



1万円札がざ～くざく出現



隠したトランプがペットボトルから出現



鉄輪で縛られたのにす～と抜け出てきた



上越市共生まちづくり課課長の木村さん



たねもしかけもない鉄輪を確認



浦川原会会長の小管さん



(株) じょうえつ東京農大社長の藤本さん



信越化学常務取締役の高杉さんの音頭で乾杯



松川副会長の挨拶





宴席での手品 - よ〜く見ていたのに??



当たった当たった！おめでとう



関の声「エイエイオー」田端 宗寿さん

「三笠」見学会

大網目町 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

今回の勉強会は、二月十九日（土）、横須賀市三笠公園にある記念艦「三笠」の見学会です。参加者は十四人。この日は晴れ、春のような暖かさで風もなく、絶好の見学日和、すく近くに猿島も見えます。

「三笠」は東郷平八郎司令長官が乗艦し、一九〇五年五月二十七日、日露戦争時に日本海対馬沖でロシアのバルチック艦隊を迎え撃ち、壊滅させた時の日本海軍旗艦です。あれから百年以上経ち、その頃の国内の興奮を知る人はいなくなっていました。艦内に入ると直ぐに広報担当の曾川さんからの説明と、当時の世界情勢、日露交渉状況、Z旗を掲げての戦闘状況など二十五分程にまとめたビデオ上映。その後は、各自思い思いに艦内見学です。三十名主砲、東郷長官が指揮を執ったデッキやレリーフ、艦長室、

士官室、応接室、海軍中尉以下の人達が使った吊り床（ハンモック）、開戦早々負傷した敵司令長官・捕虜となったロジェントウエンスキー中将・敵兵救助等の生々しい絵画、その他パネルなど我が海軍軍艦の装備や兵員你的生活空間、艦船の配置・戦闘までの航跡、戦闘状況等々、もちろん「Z旗」や「皇國興廃在此一戦……」の額字、ユックリ見たら半日以上はかかりそうです。三笠は、司馬遼太郎原作のNHKドラマ「坂の上の雲」のロケ地としても使われ、ドラマ効果で平成二十一年度の観覧者数は三十七年ぶり

に十五万人を超え、その後も大勢の観覧者があるとのこと。日本海海戦後の「三笠」について、平成二十一年十二月九日の朝日新聞は、次のように書いています。

『三笠は、日露戦争から帰った佐世保

で爆発事故を起こし沈没。引き揚げて修理したが、ワシントン軍縮会議で廃艦が決まった。保存を求める声が上がリ、東郷を名誉会長に「三笠保存会」が設立された。

災難は続いた。終戦後、連合軍の占領政策で艦橋やマストなどが撤去され、四十八年まで米軍の管理下に置かれた。国への返還後もダンスホールになるなど、盗難でさらに荒れ果てた。

十年後、米海軍のニミッツ元帥が雑誌「文芸春秋」に「三笠と私」の一文を載せた。ニミッツは日露戦争後、若い士官候補生として来日時に東郷と歓談し、後に東郷の葬儀にも出席した。皮肉にもその後は日米関係の悪化で、真珠湾攻撃直後は太平洋艦隊司令長官に任命され、日本相手に指揮をとった。東郷を尊敬していたニミッツは戦後の三笠の荒廃ぶりを耳にし「ミカサがいま悲しむべき状態にあるとは甚だ残念」と驚いた。ニミッツらの声に触発され、米海軍が揚陸艦を売却用に寄贈するなど、国内外から約一億八千万円の寄付金が集まり、三笠保存会も再建された。』

見学会が終わって、街へ出れば車歩道分離用の鉄杭には、「イカリ」のマーク。海軍の街だったことを実感。この日、名物の海軍カレーを食べ損ねた人は数人でした。



春の交流会

新潟市 田中 幸子（西城町出身）

回想：

四月十四日(木)は気温二十三度の晴天でした。私が生まれ育った「ふるさと」高田を離れて幾十年経ったでしょうか…高田駅は昔の面影が全くありません。駅周辺の建物も同様です。私は一抹の寂しさを抱きながら、高田駅前からタクシード交流会会場の「なかしま食堂」へ向かいました。タクシーが西城町を通り過ぎて人家が疎らになったその時、何と云うことでしょうか！夢にまで見た桜の木々が昔のままの美しい姿を堀に映して、私を優しく迎えてくれました。見事に咲き誇った薄桃色の桜花！その美しさに、遠い遠い幼い頃の思い出が呼び起されて、ノスタルジックな気持ちになりました。…十歳の頃の私…父と一緒に寒鮎釣りを楽しんだ外堀は…雪が降り積もって凍てつくような寒さでした。



「一尺ずれたらアタリは無い…」と寒鮎釣りの時の父は口癖のように言いながら鮎がいそうな水深い場所をこまめに探していました…懐かしい…パーチャルとリアルの間の世界に蘇った私…その昔、晋の時代の詩人、陶淵明が「ふるさと」田園に帰去し、甦生のおもいで

荒を南野 際が開かん
拙を守つて 田園に帰る。

春暖たり 遠人の村
依依たり 墟里の煙。

久しく樂龍の裏に在りても
復た自然に 返るを得たり。

と、うたいました…ふるさとは遠く離れているほど、その想いは強く深いものなのかも知れませんね。

「なかしま食堂」花見の宴

午後一時、いよいよ「春の交流会」の開催時間となりました。私は初めての参加です。上越市長村山様のご挨拶の中で、被災地の皆さま方の避難所ごとの避難者受け入れについてのお心配りを伺い、市政の温かさを深く感じました。(この温かい街で被災者の皆さまが一日も早く元氣を取り戻して欲しい…)「ふるさと」ネット」の会長和久井様も被災地の皆さま方へお心配りをされながらも春の交流会を開催して下さい、ご挨拶の言葉は会への思いと会の皆さまを心から思い愛されていらつしやる、その温かいお人柄に心打たれました。

お酒を酌み交わし、「観桜の宴」もたけなわとなる頃には同席の方々が母校の先輩後輩であることがわかり、老若男女、

年齢も超越して和氣満々の中にも和やかに楽しい時間が流れました。「来てよかった！」「ふるさと上越に！」楽しさ嬉しさ懐かしさが胸中いっぱい広がりました。いつの間にか時刻は午後四時に。会はお開きとなりました。誰かが「集合写真」「集合写真」と叫んでいました。皆なで二列に並んでパチリッ。美しく撮って下さいね、なんて笑無理解注文は云えません笑(それなりに撮れたはず…)「時間です…」多くの方々にお見送りをいただきました。「また会いましょうね」と…宿泊組の私たちはマイクロバスに乘車してお別れを惜しみながら「なかしま食堂」を後に風巻神社へ向かいました…



風巻神社参拝

風巻神社は、牧区と安塚区を結ぶ国道四〇五号線沿いにあります。風の神を祀る風巻神社です。山間部は厚い残雪に覆われていて、別世界に迷い込んだと思うほどで、先刻まで桜花を眺めていたことなど嘘のような雪景色でした。驚いている間にバスは「風巻神社」の拝殿前に到着。寒い！兎に角寒い！拝殿前の「狛犬」のぬめぬめしい表情も、寒そうに歪んで見えましたが、精巧な彫刻で目が釘付けになるような特別な建物であるわけではない風巻神社ですが、何か独特の空気感がありました。見渡す限り樹高二十メートルは越えていると思われる杉の木が山の斜面に立ち並び、静寂な境内は身が清められる感がしました。風巻神社の創建は天曆二年（九七八）に大和国の龍田神殿の分霊を勧請したのが始まりとされ、創建当初は山頂に鎮座していましたが宝永二年（一七〇五）に火災によって社殿が焼失し、宝永四年（一七〇七）に、山麓に再建した神社だそうです。昭和三十一年地滑り災害にて現在地に遷座しています。上杉謙信に会いに来た各国の武将が、この神社に立ち寄り句を詠んで奉納したとかして、どんな句を詠んだのでしょうか。私たちはお祓いをして頂き拝殿に玉串を捧げ、神霊と参拝者とを結ぶ神聖な儀式を行いました。拝殿に繋がる小さな

太鼓橋を渡ると神輿舎があり、二十人位で担ぐと思われる素朴な感じの御輿が収納されていました。毎年この御輿を担いで百十四段の階段を登る「風巻神社の大祭」が、何と千年も続いていると伺って驚きました。凄いいと思いませんか？…凄いです！



深山荘（上越市・旧牧村）

午後五時過ぎバスは、上越高田の町から妙高・黒姫の山々を右手に見ながら、牧村へ。牧村から三叉路を右手に向かって一本道を走ると高台に深山荘が見えてきて、そこから五分くらいで到着しました。「いらっしやいませ」と宿の人たちの温かいお出迎えを受けて部屋に。「先にお風呂に入る？」「少し休む？」「浴衣着る？」「お茶にする？」「食事時間何時？」「食事の部屋はどこだっけ？」

「部屋の鍵は：誰が持つ？」女性三人集まれば羨しいのに：女性が四人も居るのです（笑）。先ずは急ぎ温泉へ：深山荘の温泉は宝暦七年（約二百四十年前）源泉発見という歴史ある温泉で、単純硫黄冷鉱泉ですが、無色透明無臭でした。大きなガラス窓が開放的で、眺めは素晴らしい！露天風呂があるともっといいのに：と思いました。その日、窓から眺めた景色は季節はずれの感動的な美しい雪景色でした。夜の懇談会は目を見張るような種々のご馳走が膳に並んで、飲むほどに酔うほどに話に花が咲きました。話は尽きず食後は別室に移動（笑）あっという間に時間が過ぎてしまいました。食べ過ぎ飲み過ぎでチョット記憶が：部屋に戻って温かいお布団で夢の中へ：



二日目 専敬寺へ

二日目、朝食も美味しく頂きました。今日もまた一日宜しくお願い致します。朝九時「これから専敬寺に向かいます。さあ、出発です！」雪景色が続きました。マイクロボスの運転手さんが道路を行き過ぎて：「あれ？…？」残雪で辺りは白一色のため、見慣れていたはず：道路を見失ってしまい：「バック オーライ！」（安心下さい）無事、専敬寺到着しました。



専敬寺は貞観一（八六〇）年に真言宗寺院として開創したと伝えられています。が二五六年に浄土真宗に改宗しています。創建以来大きな火災が五度もあり多くの宝物を焼失しています。現在の専敬

寺は明治初期の建造物で総ケヤキ造りで
 県内屈指の重厚な大寺でした。広い廊
 下は…少し暗いので段差が気になって
 「ここ…段差がありますので気をつけて
 ください」「はい…」「ここは…段差です」
 「はい…有難う後から来る人に…々言っ
 ている…私…自分自身が可笑しかったで
 す。お寺では、お茶と自家製のケーキの
 温かいおもてなしを頂きました。ご馳走
 様でした。(合掌)

雪だるま物産館



上越市安塚区所在の雪だるま物産館。
 地元の農家が心を込めての手作り品物
 が、店内いっぱい陳列していました。
 「お買い物…お買い物…」時間が気にな

る。「お野菜は…」「山うどの佃煮と、山
 芋こんにやくと…まあ！美味しそうね」
 (笑)「皆さんは何を買いましたか？」人の
 ことを気にしているほど時間が無いで
 すよ。「早く買いましょう」「お漬け物
 味噌漬けコーナードこかな…」旅行中で
 あることを忘れていつの間にか家庭の主
 婦感覚に戻っている(笑)エプロンを着けて
 いないだけですね(笑)

五智国分寺へ

マイクロボスはいつの間にか直江津駅
 前通りを走っていました。昔のままの雁
 木が懐かしい。「世川履物店」も…昔の
 まま…あつと云う間に西本町を過ぎて五
 智国分寺に到着でした。



仁王門

国分寺の境内に足を踏み入れると最
 初に目に入るのが仁王門…この仁王門
 は天保六(一八三五)年、能生町の七
 郎左衛門が中心となり再建し、天保七
 (一八三六)年、名立町の長井要老と弟
 子二人により製作されたそうです。

三重塔

仁王門を潜ると右手には、幕末に着工
 し、未元成で終わった三重塔(県文化財)
 が未元成ながら美しい姿を見せていまし
 た。壁面に石倉正義銘が彫り上げたとい
 う、十二支と中国十二孝がはめ込まれて
 いるのが印象的でした。



竹之内草庵

境内の右の奥には竹之内草庵が建って
 います。親鸞聖人が流罪となり、越後の
 国に流れ着いた後に境内の五仏のそばに
 草庵を結び聖人が住まわれました。その
 草庵が竹に囲まれていたので、竹之内の

草庵と呼ばれたそうです。

五智国分寺(本堂)

ご住職の奥様から国分寺の本堂で、国
 分寺の沿革を拝聴することができまし
 た。五智の国分寺は天平年間に聖武天皇
 勅願より日本全国に建てられた国分寺の
 一つで、永禄五(一五六二)年、上杉謙
 信により現在の場所に再興されたそうで
 すが、その後も幾度となく災興を繰り返
 して、昭和六十三年にも焼失し、平成九
 年から十年もの歳月をかけ、地元住民の
 多大な芳情によって再建となりました。



本堂は「檜かんな」仕上げの総檜造り
 です。鎌倉時代の様式で外見は簡素です
 が内部は重厚な造りでした。「五智」名

ある奥の土間に入る。そこでは「人見女」の取り調べの様子が再現されています。(等身大人形で再現)



当時の関所で一番厳しかったのが「女改め」だったそうです。関川の関所では、特に江戸から出る女性(出女)を厳しく取り締まっていたのが「人見婆」で、江戸に住ませた大名の妻子が、国許に逃げ帰るのを監視するためだったとか。女性の手形は男性と異なり、幕府留守居役によって管理・発行され、手形には、発行者の印判の他に、通行人数、乗り物の数、出発地と、目的地の他、体の特徴や、髪型まで厳しく記されていたそうです。平成十年春、関川改修により関川の「一の橋」の架け替え工事が行われ

て、新しい橋を「長寿橋」と名付けたそうです。また、この街道は江戸時代、佐渡から「金銀」を江戸に運んだ道だったことから、長寿橋の「長寿」と「金銀」をかけて「きんさん、ぎんさん」の象を作り、ご本人たちから除幕してもらったのだそうです。「きんさん、ぎんさん」の手形もありました。(歴史館には非一度訪ねてみてください、何か発見できるかも知れません。)

「金型あかくら荘」

直江津駅前前でバスに乗車された、あの気になるご婦人に：思い切って話しかけましたら、何と！ 母方の又従姉妹でした。再会！ 何十年振りの再会でしょうか？互いに、その奇遇に大変驚き、喜び合いました。午後五時三十分過ぎ、バスは「金型あかくら荘」に到着しました。「金型あかくら荘」は冬はスキー場としても有名で、日本海へも近く、夏には高原リゾートと海水浴を一度に満喫できる保養施設だと聞いておりました。然し、実際に建物の中に入って見て驚きました。そこはとても素敵なホテルでした。部屋は3室もあって、ゆとりの空間が贅沢です。ここは本当に保養施設ですか？って、思うほどでした。温泉にゆったり入り、美味しいお酒と、新鮮な料理を口にして、皆で、至福の気分でした。

「金型あかくら」を設計した方は「割烹みなどせ」を設計された方と同一人物！でした。その豊かで鋭い感性と、独自の会話は楽しく、どんどん引き込まれてしまふほどの魅力ある人物でした。地下には大きな多目的ホールや会議室、使い勝手の良い設備が整っていました。カラオケルームでは、上手下手は別として、みんなで存分に歌い、楽しみました。(楽しかったですよ)(笑)



三日目 道の駅「しなの」

天気は下り坂で、少し雲が多くなってきました。道の駅「しなの」は明るい雰

囲気の売店風景で、広々としていました。内では土産品がジャンル毎に整然と並べられており、またディスプレイにも気を遣っているように感じられる。そんな中、信濃の特産品をあれこれ探してみました。

クローズアップ「ルバーブ」商品あれこれ・・・売店を覗くとやたら「ルバーブ」の文字を見かける。ルバーブクッキー、ルバーブジュース、ルバーブキャンディ、ルバーブジャム。しかし、この「ルバーブ」って果たして何だろう？ それは、シベリア南部原産のタデ科の植物だ。葉草タイオウの仲間。野尻湖畔の国際村に避暑に訪れていた牧師が種を持ち込み、ここ信濃町が育てるのに適した土地であると判断したことから、産地化されたものらしい。ルバーブは、繊維質と有機酸が多く含まれた健康食品でもある、とのこと。(店内説明を要約)体にいい感じがある。お土産はクッキーとキャンディにしました。

齋藤陶齋さんの窯場見学

バスのワイパーが動き始めた。生憎の雨になってしまいました。新潟県上越市高田区寺町の陶芸家の齋藤陶齋さんをお訪ねして作品をご紹介します。登り窯を見学させて頂きました。初代の齋藤陶齋さんは 栃屋 (現長岡市) 生まれで、京都

で近藤悠三、富本憲吉の二人の人間国宝に学び、戦後は当時の高田市に定住されました。兄の齋藤泰三さんが寺町で、久昌寺（きゅうちょうじ）の住職をしていたので昭和二十一年にたよってこられたそうです。昭和二十三年に窯を築いて、陶器も磁器も焼いたそうです。襷絵を最も得意とした図柄で、色絵の磁器の皿や壺にはすぐれた作品が多く、白磁や灰釉（かいゆ）など、絵のない作品も多くあり目を見張るものばかりでした。陶齋を号とし、齋藤陶齋ともいいます。今は息子さんの齋藤尚明さんが陶齋を襲名しておられます。現在の陶芸はガス窯、電気窯が一般的に用いられているそうです。登り窯は安土桃山時代頃からの伝統的な焼成方で、駱駝の瘤のような半円状の焼成室が三室、斜面に沿って階段状に連結していました。最初の「二の間」に続き、「二の間」「三の間」と熱が上へ上へと登って行く性質を手く利用して最上部の部屋の先には煙道があり、最後は煙突へと続いています。各焼成室に薪を投入する穴が儲けられており、作品は大量生産に向いていたそうです。焼成温度は最高で千三百度C前後に達するそうで屋外に大量の煙が立ち上るため火事と間違えられないように、予め消防署に連絡して焼成を行ったそうですが、何よりも大変なことは、一週間以上も焼成を続

けるための膨大な薪と費用だったそうです。外は冷たい雨が降っていることも忘れて、焼成の奥深い未知の世界から生まれる作品に、夢心地でいつまでも見入ってしまいました。



春日山「見晴らし屋」―昼食―

外は冷たい雨。陶齋の夢から冷めて。バスは春日山へ向かいました。雨足は先刻より強くなった感じがする。バスから降りて小走りに「見晴らし屋」に急ぐ。春日山城跡に位置する小料理屋の窓からは、雨に濡れる上越の街並みが一望できました。上杉謙信公も眺めたであろう景色を望みながらの食事です。旬の食材を使い、季節感を生かした料理を存分に楽しみながら、会話が弾みました。箸袋を

開くと高田の四季と春日山音頭の歌詞が印刷されていました。高田の四季の「冬の歌詞」が思い出せない（笑）。箸袋は春と夏しか印刷されていて秋と冬が印刷されていないのです。みんなで思い出そうと、だんだん真剣になって考えてしまいました（笑）。



「上越観光物産センター」へ

風が強く吹いていた。最後の買い物です。上越観光物産センターのふるさとコーナーでは、四季折々の海・山の幸など、上越の物産・特産品を一堂に集めて展示販売していました。継続だんごは、白あんこを小さく平に丸めて串に刺し、表面を軽く焼いて寒天で照りを出したものが。あつさりとした甘味と風味が人気。

ひと串に直径3cmの一口大のだんご四個が通してある。そのかわい姿が、懐かしくなりお土産に買いました（笑）。これが昭和三年に出版された林美美子の自伝的小説「放浪記」で一躍有名に『直江津についた、港の駅なり。駅のそばで団子を買った。「この団子の名前は何か言うんですか」「へえ、継続だんごです」』

「継続団子？団子が続いているからですか」…「継続だんごの素朴な味が、林美美子に生きる力を与えたというわけ。最後の買い物もあれこれ買った。直江津駅へ向かいました。バスは直江津駅前到着。手を振ってバスをお見送りしました。バスから降り立った人たちも、新幹線や高速バスの時間です。お別れです。春の交流会は私にとって出会いと感動の連続でした。温かい心のふれあい。笑い。神社仏閣巡り。車窓から見た野山や雪景色。美しいお堀の桜。有意義な三日間でした。有難う御座いました。心から御礼申し上げます。毎年咲き続ける美しい桜花のように、この素晴らしい「上越の地」に、皆で集って元気な「桜花」を咲かせましょう。

「おまんた きない ふるさと上越に！」



専敬寺の大黒柱



専敬寺での説教



鮎正宗酒造の天然湧水



深山荘では紙芝居もありました



関川関所の歴史観



鮎正宗酒造の御神木



金型あかくら荘でのカラオケ大会



田中 幸子さん

上越火力発電所について

委員長 岡田 昌孝（妙高市出身）

はじめに

昨年春の交流会で見学しました、上越火力発電所の建設は、中部電力（株）が、二号系列（各百十九万kw）を、東北電力（株）が三号系列（百四十四万kw）を担当しています。現在中部電力（株）の、二号系列のみ建設が進められています。一号系列は1・1号機出力五十九万五千kw（ガスタービン発電機二台と蒸気タービン発電機一台、いずれも約二十万kw）と1・2号機出力五十九万kw（内訳は1・1号機に同じ）で構成されており、1・1号機は二十四年七月に、1・2号機は、二五年一月に、また、二号系列は、二五年七月と、二六年五月に営業運転開始の予定となっています。

本年七月二十日現在の工事の総合進捗率は六十九%であり、昨年四月の建設所に入る人は毎日千二百人程でしたが、現

在は、千人と最盛期を迎えております。



上越火力建設工事全景

サービスビル

発電所の司令塔ともいうべき、事務所や中央制御室が入るサービスビルは既に使用が開始され、中央制御室では制御装置や機器の試験が行われていました。



サービスビル



中央制御室

本館建物

ガスタービン発電機や蒸気タービン発電機が設置される本館建物は、1・1号機から2・1号機分まで完成し、現在2・2号機分を増築中です。



本館増築工事

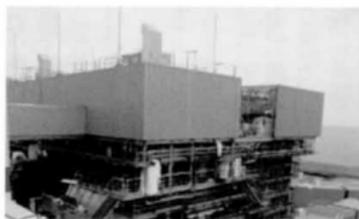
この発電所の発電方式はコンバインドサイクル発電方式を採用しています。これはLNGを燃焼させ、その高温の燃焼ガスでガスタービンを回して発電します。ガスタービンを回した後の排ガスを（六百℃）は、排熱回収ボイラに行き水を沸騰させて蒸気にします。この蒸気で蒸気タービンを回して発電します。このようにガスタービンと蒸気タービンを組み合わせる方法がコンバインドサイクル発電です。効率が高く燃料を削減

できるので、環境にも優しい発電方式です。

一号系列本館内主要機器の据付はほぼ終了し、現在付帯設備の工事や、補機類の試運転が行われていました。



蒸気タービン発電機



排熱回収ボイラー

LNG受入設備

発電所の燃料は液化天然ガス（LNG）です。LNGは天然ガスをマイナス百六十二度で液化したもので、成分の九十%以上はメタンです。天然ガスの液化により体積が六百分の一に縮小されたLNGは、輸送と貯蔵が容易になると共に、液化時に不純物が取り除かれるので、燃焼した時には硫黄酸化物やばい煙は出ません。また、発熱量が高いので、有利な点が多く、一般の家庭では都市ガスとして使われています。

三百メートルのLNG船が係留できる棧橋工事は終了し、四本の受入用ローディングアームが空高く聳えて、着船を待つ状態でした。十月八日に第一船が接岸し、LNGを受け入れる予定とのことでした。

LNGを貯蔵するタンク（容量十八万キロリットル）は三基建設されています。

NO・1タンクは工事を終了し、受入を待つ状態でした。受入を始めてから十日間程かけてタンクの冷却（クールダウン）を行うとのことでした。

LNGを海水で温めてガスに戻し、ガスタービンに送る気化設備も四台中三台の据付が終了し、試運転待ちでした。



本館増築工事

フレアスタック

百五十メートルの煙突工事は、ほぼ終了していました。煙突の他に高いフレアスタックが建っておりまます。これはガスタービンで燃焼するもの以外の、余剰ガスを燃焼させる設備です。メタンガスのまま大気に放出するより、燃して二酸化炭素にした方が、温室効果係数が十分の一になり、環境にやさしくなるとのこと

です。直江津に来られたら、夜空に赤々とガスが燃える景色が、まもなく見られることと思います。

直江津港に隣接した八千浦の埋立地では、国際石油開発帝石（株）のLNG受入設備の工事も進められておりました。



150 m煙突



フレアスタック



国際石油開発帝石（株）LNGタンク

おわりに

発電した電力を中部電力（株）の系統に送るための送電線（二十七万ボルト）は本年6月に完成し、6月8日に初めて通電され、各機器の試運転はこの送電線から受電して行われていました。

来年夏の営業運転開始の頃には、構内の整備も進みきれいな発電所が誕生していることと思います。その頃の見学をお願いして建設所を後にしました。

おわりに、終始大変お世話になりました。上越火力建設事務所の山本文俊様に厚くお礼申し上げます。

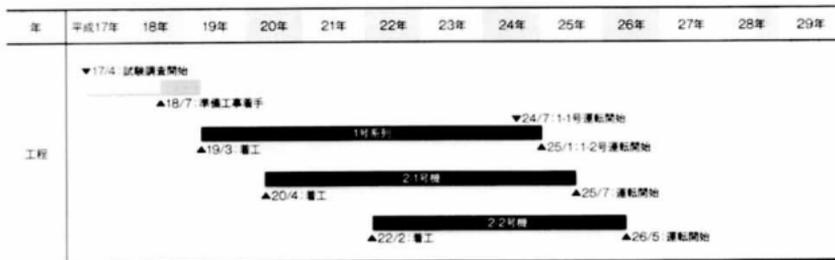
上越火力発電所の建設誘致に関しては太田四郎前会長のご尽力によるところ大である。当時、中部電力の副社長だった太田さんが長野地方の電力供給のため直江津に発電所を計画されたのである。

今日の福島原発事故による電力事情の悪化している状況下では画期的な大ヒット事業となった。脱原発の議論が聞かれる今日では火力発電が主力にならざるを得ない。今後、多くのLNG火力発電所が建設されるであろう。更にすこいことは世界的に石油が高騰する中でLNGのみが新たな採掘法が採用されたことにより価格が下がっていると言っただ。

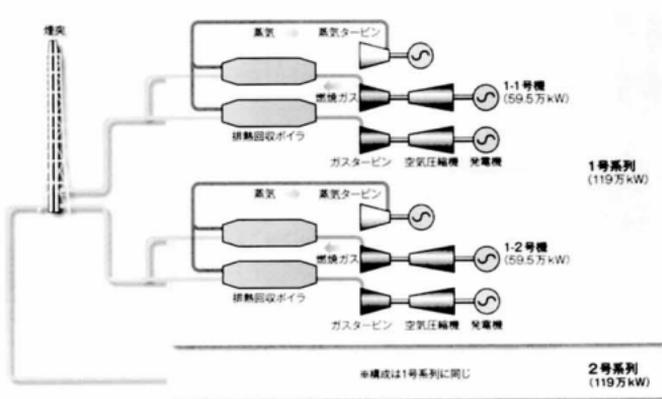
日本国民は太田前会長の先見の明に大いに感謝しなければならない。（編集部）

(上越火力建設事務所パンフレットより)

系列	1号系列	2号系列
出力	119万kW(59.5万kW×2)	119万kW(59.5万kW×2)
発電方式	コンバインドサイクル発電方式	コンバインドサイクル発電方式
燃料	LNG(液化天然ガス)	LNG(液化天然ガス)
発電用水	工業用水	工業用水
冷却水	海水(取水量/毎秒31m ³)	海水(取水量/毎秒31m ³)
排煙脱硝装置	乾式アンモニア接触還元方式	乾式アンモニア接触還元方式
煙突	高さ150m×1基(鋼製鉄塔支持4筒身集合形)	



系列の構成



株じょうえつ東京農大

じょうえつ東京農大は、東京農業大学と地元関係者が平成二十年四月一日に設立した株式会社です。上越市谷浜採取地区で耕作放棄地を再開発して、有機農場を経営しています。東京農業大学は文科省の補助金で平成十二年から学術フロンティア研究を実施していましたが、平成十七年にその有機栽培実験サイトを桑取に置いたことが当地との関係の始まりでした。この地域は平成大合併前の上越市では唯一の中山間地で、後継者不足や高齢化が深刻でした。耕作放棄地が30%にも達していたのです。

株じょうえつ東京農大は、耕作放棄地を借入れ再開発して、コシヒカリや野菜を完全に無農薬無化学肥料で有機栽培しています。すでに10ヘクタールを再開発して全圃場で有機JAS認証を取得しています。この業績が認められて、第三

回(平成二十二年) 耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業において『全国農業会議所会長賞』を受賞しました。平成二十一年度に正式に農業参入を果たしてから、それまでの実験成果を踏まえて現在は、コス、カボチャ、ズッキーニ、ソバ、ダイコンの五品目を基幹作物に定めて生産活動を行っています。上越農場の活動は上越タイムス、新潟日報、JCVなどで頻りに報道されているので、ご存知も方々も多いと思います。そこで、今回は東京にある本社の営業活動とお客様の反応などを取上げます。

株じょうえつ東京農大の本社は、東京農業大学世田谷区キャンパス18号館6階の国際バイオビジネス学科バイオビジネス環境学研究室の中にあります。これは代表取締役社長である藤本彰三教授の研究室です。本社では様々な業務をひとり

の社員(橋元さん)が担当しています。時には経理、時には総務、時には営業時には直売に出かけて行くこともある超多忙な人です。以下は、橋元さんのお話を中心に紹介します。



株じょうえつ東京農大本社入り口。のぼりや新聞記事や広告等
でひときわ目立つ研究室です。

・オープンカレッジ

東京農大では、平常の学生向け講義や実験などの他に、社会人向けのオープンカレッジを開催しています。六月のある日、オープンカレッジ「農とアロマ」を担当する先生が研究室(本社)へお見えになり、次の土曜に講義するの「生徒さん向けに商品の販売を」と誘われまして、参加者には親子連れもいて、オーガニック、アロマ、癒しのようなものへの関心の高さが伺われました。

商品が売れなくても弊社を認知してもらうことを目的として出店したら、予想外に商品を手にとって見てもらい、質問もあり、ご購入も頂けたそうです。とくに『雪下踊り(切干大根)』は、「こんなにきれいな切干大根は見たことがない」という感想が多く、売行きも良かったそうです。株じょうえつ東京農大の切干大根は、農場スタッフや学生が、有機栽培大根を雪下から掘り出し、わざわざ一本一本皮をむいて千切りし乾燥させて製造します。手のかけ方が違うのです。だから甘く美しく柔らかで、おいしいのでしょうか。一度食された方は必ずまた食べたくなる代物のようです。他に、有機栽培大根を使った加工品『大根おろし入りポン酢』も好評だったようです。ほとんどの方が株じょうえつ東京農大の存在をご存じなかつたようですが、環境に優しいもの、健康に優しいものを生活の中に取り入れたらという高い意識をお持ちの生徒さんたちで、こんな会社があったのかと感激されている応援購入だったようです。橋元さんは手ごたえを感じていました。

また、東京農業大学にはグリーンアカデミーという成人学校もあります。これは食農環境に関心の高い方々(多くはリタイアされた社会人)が一年間しっかりと学ぶ学校です。

（欄）じょうえつ東京農大の社長は年一回、教授として「環境保全型農業論」を講義されています。もちろん、その講義に会わせて会社の商品を販売に行きますが、さすがにこの時は全て飛ぶように売れますと、ニコニコ顔でした。



オープンカレッジ会場の入り口。商品の並べ方も段々と慣れてきました。

・マクロビオティックと玄米
マクロビオティックや玄米について、興味関心をもつ人が増加しているのを実感したのは、橋元さんが六本木のオーガ

ニックフェスタに出店された時だそうでした。マクロビオティック（通称マクロビ）とは、独自の思想や哲学を含む食事法の一つで、玄米を主食とし、有機農産物を摂り、肉類や卵、白砂糖は摂らないなど、厳格な食事法を特徴としています。あの有名なマドンナさんの子供のアドバイザーがマクロビで治ったことで火が付き、近年の健康食ブームに乗って実践者が増えました。ヨガ愛好者の中にはマクロビ実践者も多く、とくに若い女性が多いそうです。オーガニックフェスタで、こんなにヨガ人口が多いのかと驚くと同時に、もっと多くの有機玄米を並べて置くべきだったと感じたそうです。



オーガニックフェスタ（六本木ミッドタウン）。六本木のお洒落スポット。外国人の来場者も多く見られました。



・食楽園（新潟館）と米ぬか

表参道にある食楽園（新潟館）では、（欄）じょうえつ東京農大の有機栽培こしひかり2キロ袋が常時販売されています。魚沼産こしひかりより値段が高く、あれで売れるのだろうかとある人がブログで書いていたことがありました。しかし、毎月必ず買って下さるリピーターのお客様がいらっしゃるので、着実に売れているようです。

先日、あのホテル（ペンシユラ東京）からお電話がありました。「海外のお客様が日本でおいしい有機米をお土産に買ったので紹介して良いか？」との問合せがあり、食楽園で入手可能とご案内したそうです。（欄）じょうえつ東京農大の有機米はいよいよ海外進出するのでしょうか。

最近、この新潟物産館へ出荷する商品の種類も増えてきました。有機米九百グラム袋、切干大根、乾燥カボチャ、そして何と「米ぬか」。何故「米ぬか」でしょうか。それは一人のお客様の問合せがあったから。

「有機米を作っているのに米ぬかは売らないの？有機の米ぬかはなかなか売っていないのよ。」米ぬかなんで欲しい人が本営にいるのかと半信半疑でしたが、お店から受注し、出荷開始。それが結構に売れ始めているようです。米ぬかをお求めのお客様は、ぬかの部分に農薬が溜まりやすいことをよくご存知で、絶対に有機米の米ぬかでなければダメだと探し回っているようです。最近ではぬか漬けの他に、美容に使う人が増えてきて、石鹸・洗顔料に利用されています。

たつたお一人の消費者でも販売リクエストされる商品は、同じものを欲しがっている人が他にも必ずいるということを知ると、橋元さんは苦笑していました。



表参道にある食楽園（新潟館）。他の新潟県物産品とともに（欄）じょうえつ東京農大の商品も常時販売されています。

名古屋サロン

恒例名古屋サロンが本年も十月に予定されております。会場はいつもの名古屋駅上「パゴラ」。写真は昨年の様子です。会場が貸切でないこともあり、最初の乾杯の後は、各々自由懇親というのがこのスタイル。フリードリンク、ピュッフェスタイルということもあり、懇親の一方で料理選びも余念がありません。特にステーキ、ローストビーフ、蟹の前の行列は目を惹きます。あっという間に散会の時間になり、翌年の再会を誓いながら、家路及び二次会へ流れるというパターンです。いつものことながら、幹事の尾原ご夫妻のご尽力頭下がります。そして本年もよろしくお願い申し上げます。



近畿地区サロン

本年も十二月に予定しております。本年は記念すべき十回目となります。お昼からなので、宴というよりは食事会的なスタイルで始まりますが、勿論フリードリンクですし、カラオケまであります。「雪中梅」も供されました。締めは全員で「高田の四季」の合唱。散会後は有志でミナミの夜へと繰り出します。これもお約束の流れです。



東京サロン

ご存知、第二水曜十七時半の渋谷でのサロンです。いつも二十名ほどで九十分ほどの時間を楽しく過ごしております。千円会費でビール・ふるさとの美酒・おつまみを用意しております。このたび、高性能のオーブントースターを導入しました。サロンの会場で幻魚、スルメなど焼いて好評を博しております。おかげで毎月新しい会員さんが見えなくなっています。まだ、いらっしゃったことの無い方は是非「サロンデビュー」しませんか。お一人でも何の気兼ねもありません。「上越」繋がりで、すぐに仲間入りできること間違いなしです。常連さんも新しいお仲間を誘っていただけると嬉しいですよ。事前予約は特段必要ございません。毎月ご案内は送付されていますが、十数年第二水曜は変更してありません。第二水曜＝サロンの日と銘記しましょう。



東京以外にお住まいの方、東京へのご出張、ご旅行は是非第二水曜に組み込んで下さいね？！

「上越だより」

上席 下西 隆子（本城町在住）

（あいさつ）

わたしは、三重県松阪市出身です。十八歳までは「土着民」でしたが、大学進学のために故郷を離れてからは、日本各地を転々とするようになりました。

上越には、昭和六十三（一九八八）年九月に転入しました。それ以来、二十三年間上越の地で暮らしております。

「上越」というところは、わたしにとって、暮らしやすい街です。

日本海側であり、降雪地帯の上越と故郷の松阪とは、違いもたくさんありますが、それにも増して、「故郷の空気」を思い起こさせる共通点を見いだせるからでしょう。例えば、「人口密度」とか、「城下町」とか「田舎度？」とか。そして、「上越」はわたしにとって「不思議がいっぱい」、「宝がいっぱい」の街です。

宣長さんと轍次さん

（二〇一二年四月）

しきしまの やまとごころを
人とはば 朝日にはふ

山桜花

これは、本居宣長の作った和歌です。わかりやすく言うと、「やまとごころ」（日本人の心構え）は何ですか、と問かれたならこう答えましょう。たとえて言えば、朝日に映えて美しく輝く山桜の花のようなものです。日本人の心映えが桜の花のような、本当にうれしいです。（太平洋戦争中は、桜のようにばつと散る潔さこそ美德、と教えられたようですが。）

松阪で有名人と言えは、なんといつても「本居宣長」（一七三〇～一八〇一）です。「寺子屋新聞」でも、一月号から不思議な宣長さんという連載が始まり、とても楽しみにしています。宣長さんの第一の功績は、「古事記」の全編を註釈し、四十四巻の注釈書「古事記伝」を作ったことでしょう。三十五年をかけた「古事記伝」編纂の仕事は、手法（実証的・文献的）や内容（例えば、古代の日本人の精神を解明）においても、後の国語国文学や日本史の研究の基礎になっているそうです。

わたしは、大学で国文学の教室に籍を置いていましたが、指導してくださった教授は、わたしが松阪出身であると知ると、親しみを込めて接してくださり、「本居宣長」がいかに優れているかを語られるのでした。宣長さんが国語国文学の巨匠であることを改めて感じました。そして、国語国文学の研究者にとって松阪は「聖地」なのです。



本居宣長の奥墓

二月二十七日、新潟県三条市庭月（旧下田村）にある漢学の里「諸橋轍次記念館」に行ってきました。ここは、長岡の北東、上越市から百キロメートルほどの場所にあります。この日は、早春の気配を感じながらも、道路沿いの残雪から今年の雪の多さを想像することができました。清流五十嵐川の瀬音が響くところに、レンガ色のがっちりとした記念館（轍次さんの生家跡に建つ）がありました。建物の壁面に「行不由徑」（行くに徑に由らず）の文字が刻んでありました。この言葉について轍次さんは、「何事も大道

平成二十三年六月

下西隆子

を行け。小道を歩いていると、必ず行きづまりがあり、大成しない。(『論語』より)と、解説しています。諸橋轍次さん(一八八三〜一九八二)の一番の功績は、『親字五万余字、熟語五十三万余語を収録した世界最大の漢和辞典『大漢和辞典全十三巻』大修館書店発行)を編纂したこと。単に漢字の読み方を調べる場合は、ハンディな辞書や電子辞書で十分ですが、国語国文学や漢文学の研究をしている人々にとって『大漢和辞典』は、漢字の音訓や意味ばかりではなく、言葉の出典や使い方を教えてくれる「知識の保存庫」なのです。学生時代、研究室に鎮座していた『大漢和』は、不勉強なわたしでも、すごいものという認識を持っていました。

轍次さんは、この大事業を昭和三(一九二八)年に始め、昭和三十五(一九六〇)年完成させました。辞典出版は独力ではできません。辞典に載せる言葉の収集はもちろん、出版社関係印刷関係(難しい文字は字体の活字から作った)、紙の調達、資金の調達などさまざまな人々が関わっておりました。いわば「チーム諸橋」の要に、諸橋轍次さんがいたわけです。そして「行不由徑」の実践者だったのです。

また、当時の日本は、戦争に突入して敗戦を迎える時代です。物不足、資金不

足、空襲による原稿消失、自身の失明の懸念など、完成までには困難を極めたそうです。そうであるからこそ忍耐強い越後人魂が発揮されたのかな、と確信しました。

また、諸橋轍次さんは、二年前のNHK大河ドラマの主役、あの「直江兼統」の末裔であることを、対談集「止軒閑話ひとすじの道」において明かしています。

直江は、あの時代の武士としては一番の学者だったのです。直江版といつて、直江が出版したい本がたくさん今日まで残っています。兼統の長男が戦に負けたものだからいやになり、百姓になって、諸橋と名を変えて、昔の大庄屋みたいになった。それが諸橋の先祖だうたいうのですが、

この日、近くの食堂にて当地の名物「ひごさえん」(五平餅のようなもの・こうじ味噌を付けて焼いてある)で腹ごしらえをしました。(香ばしくておいしかったです)そして、帰り道、近くにある越後長野温泉「嵐溪荘」の秘湯につかってみました。

三月三十日、久しぶりに松阪に里帰りし、山室山(やまむろやま)「ちとせの森」にある本居宣長の奥墓にお参りしました。再訪だったので、思った以上の山登りを余儀なくされました。登り口には、

山室に 千年の春の宿しめて
風知られぬ 花をこそ見ぬ

という和歌が刻まれています。

三月十一日の東北関東大震災は、当地でも揺れを感じました。遠くからゆつくりと揺さぶられるような感覚が、長く続きました。十二日未明には、小刻みに揺すられ、熟睡から覚めました。前の地震では新潟県は被害がありませんでしたが、北長野・中越を震源とする後の地震では、上越市の一部でも断水や住宅の損傷など被害があったようです。(わたしの周りではまったく大丈夫です)。

自然の営みは、千年の桜を、山室にも越後にもそして東北地方にも咲かせてくれることを信じています。こんな大災害のあとでもきつと……

お酒博士「坂口謹一郎」

(二〇二一年五月)

次の問題に答えなさい。

- (1)新潟の名産品と言えは米と酒です。おいしい米と水で酒を造るには、微生物の働きが必要であり、その微生物の働きを発酵作用と言いますが、上越市出身で発酵微生物学の世界的権威は、〔?〕
- (2)上越市で「さけ造り」と言えば、清酒のほかにワイン(岩の原葡萄園)があり

ます。川上善兵衛さんの国産ワインの醸造にも協力し、「ぶどう酒酵母」を発見した、バイオテクノロジーの先駆者は、〔?〕

(3)新潟県生まれの有名な演歌歌手は、古くは三波春男、今は小林幸子でしょうか。その小林幸子の持ち歌で新潟にゆかりのある歌は、「雪椿」(果木)。そして、そんな椿をこよなく愛した農学博士は、〔?〕

(4)石油を採掘する場所は「油田」、明治時代には上越の各地に油田があり、オイルラッシュのにぎわいがあったそうですが、「高田石油社」という石油精製の会社を経営していた人の孫とは、〔?〕

(5)宮中の歌会始めの召人を勤めたことのある文化人で「うま酒は うましともなくのむうちに 酔ひてののちも 口の さやけき」の短歌を作った酒博士は〔?〕さて、〔?〕に入る人名は、だれでしょう。そう、答えはすべて「坂口謹一郎」です。

「島英治の著書『ものと人間の文化史 麹』では、

ヨーロッパから輸入した化学をもちとして、麹菌は世界に誇る三人の偉大な科学者を育てた……世界の醸造工業の扉を開いた化学者・高橋謙吉(一八五四〜一九三三)、世界に誇る二十世紀のバイオテクノロジーを先導した農芸化学出身の

応用微生物学者・坂口謹一郎（一八九七～一九九四）、日本のタンパク質研究を率いた生化学者・赤堀四郎（一九〇一～一九九二）の各氏である。

と、「高峰謙吉」「赤堀四郎」とともに紹介されています。坂口謹一郎は、理・農・医・薬・工などの学部を超越した微生物にかかわる研究をしました。また、短歌を作るなど文芸にも親しみ、まさにマルチな才能に恵まれ、しかも才能を十分に発揮した人生でした。

四月九日、上越市頸城区鶴ノ木にある坂口記念館に行ってきました。三月二十日から四月二十九日まで「坂口謹一郎博士と酒と榎の祭典」というイベントが開かれていました。ここは、坂口謹一郎の父祖伝来（大肝煎りをしていた）の土地で、私が住む高田地区から西（日本海に向かつて）約十キロメートルのところ。（自身は上越市の高田地区（東本町）の生まれです。）

東日本大震災の影響でイベントのいくつかは取りやめになっていましたが、「葉縫庵」では抹茶のもてなしがありました。敷地内の「雪椿園」はユキツバキが百九十本近くありますが、まだちらほら咲きでした。木々にも地面にも榎の花びらだらけになるのは四月下旬でしょうか。



坂口記念館

この記念館は、酒造りの道具や資料を展示するエリアと、坂口謹一郎の生活を再現するエリアに分かれています。

前者は、「酒杜り館」を中心に、埼玉の酒造会社から譲り受けた機械化される前の酒造りの道具を、酒造りの工程や資料とともに展示されています。また、県内で販売されているお酒も一堂に会しています。後者は、坂口博士の住宅を模したもので（葉縫庵「留守亭」）、市内吉川区に（こもお酒造りとは縁の深いところ・二〇〇三年まで県立吉川高校には醸造科があった）の旧家を移築したものです。ここは、会食や展示会場として利用することができます。

「酒杜り館」では、酒造り唄を聞くことができました。酒造り唄は「労働歌」です。「労働歌」とは、田植え歌・木挽



き歌・馬子唄などで今となっては、民謡として伝承されたもののみ聞くことができるのでしょうか。歌いながら仕事をやる意味は、同じ作業をする仲間と呼吸を合わせること・仕事のつらさを払拭することなどの効果があります。「酒造り唄では、その他にも必要性がある。」と実演しながら説明してくれたのは、戦時中十四歳から、蔵人として埼玉の酒蔵に奉公に出た小真真一さんでした。酒造り唄の中には「数え歌」があり、例えば仕込み用の大樽に手桶で水を運ぶ時、数え歌で何杯目かが分かったそうです。「唄半給金」という言い方で、「唄を満足に歌えないと、給金を半分しかもらえない。」それほど酒造りと酒造り唄は密接につながっていました。しかし、現在では酒造りも機械化され、現場で労働歌としての

役割はなくなりました。今は蔵人たちの公演会やCDによって保存が図られています。



スキ一正宗

「スキ一正宗」という銘柄の清酒を武蔵野酒造（上越市西城）が製造販売しています。その「スキ一正宗」のカップ酒に、スキ一発祥百周年を記念した「着物・袴の女性が一本杖でスキ一をしている」イラストのパッケージがお目見えしました。あまりかわいらしいので、小林社長に経緯を尋ねてみました。

「越山正宗」を「スキ一正宗」に変えたのは昭和十年代、そのころ、市内では商品に「スキ一」を付けることがはじめていました。「スキ一」は「スキ一せんべい」など、着物の袋の「パッケージ」は、複製版です。たまたま版の中で見つけたもの。いつか使うものか分らないですが、ハイカマですよ。

上越の蔵には、まだまだ珍しいものが眠っています！

和算家・小林百咄 そして一八四四年

(二〇二一年六月)

一八四四年十二月「北海道」の命名者といわれる探検家「松浦武四郎」(一八一八〜一八八八)松阪市小野江町出身は鯉ヶ沢(青森県)に足止めされ蝦夷地に渡る日程を延期せざるを得なくなりしました。高野長英の逃亡の余波で

江戸時代 国内で独自に発展した算数・数学のことを「和算」といいます。西洋の数学「洋算」の対義語として「和算」と呼ばれました。和算家・小林百咄(一八〇四〜一八八七)は、今の上越市小狼谷に生まれ、幼児より神童と言われ、特に数学にその才を発揮し和算の塾(牙疇堂)を開きました。彼は、高野長英を匿った人々の一人として、吉村昭著『長英逃亡』に登場します。

小林は、京都、大坂の算学の大家にまなんで一家をなした。和算家で、その塾には名声を轟て、越後はもとより上州、信州からも多くの門人が集まっていた。かれの学問探究の熱意は強く、長英から蘭学を学んだ内田としばは文流し、西洋の天文学、測量の知識も深めていた。

江戸時代の蘭学者・高野長英はもともと奥州羽水沢(宮城県)の医師で、江戸・

長崎にて、医学のほか蘭学を学びます。

シーボルトの鳴鴻塾にも入門していました。蘭学を学ぶことは、世界情勢をよく知っていることを意味します。当時の日本の立場(鎖国)が妥当かどうかを含め、国防にも強い関心を寄せていました。それ故、長英は三十五歳の時(一八三九)蛮社の獄で投獄されます。永半を命じられ、のちに牢名主として終身刑を覚悟しますが、脱獄を企て、火事による切放し(火事から命を守るため一時的に牢屋から出す法的措置。三日後に戻らなければ重罪)により牢屋を出ます。このとき長英四十歳。三日の縛牢の約束を破り六年間もの逃亡生活を送ります。この長英の「永半」から「脱獄」「逃亡」を描いた物語が『長英逃亡』です。長英は、医師・塾での弟子・牢屋で出会うた知人などあらゆる人脈を頼り、六年間逃げまくったわけです。江戸に妻子を残し、関東甲信越はもちろん、故郷・宮城までの東北四県、江戸に戻って、また香川・愛媛・広島、東海沿線の各地。長英は、脱獄した「お尋ね者」ですから、奉行所から全国に指名手配の「人相書」が配布され、「高札」において掲示されて、厳重警戒の中で逃亡劇でした。長英が、脱獄したのが一八四四(天保一五)年八月二十九日。そして、小林百咄を頼って

越後・直津津今町に姿を見せたのは、そ

の年の秋も深まったころでした。

一八四四年の上越は、高田藩主榊原政令の統治していたころでしたが、近海には外国船が出没する時代。隣国の清では、アヘン戦争で、英国に痛めつけられていました。高田藩では日本

海沿岸警備のため、さまざまな試みがなされていました。その一つが、海岸線に大筒台場を設けることで、小林百咄は、藩からその設計を命じられていました。そんな折、小林百咄のもとに「お尋ね者」高野長英が逃げ込んできました。百咄は驚いたものの匿い、近くに住む大肝煎りの「福永七兵衛」に長英の身柄をゆだねます。大肝煎りは、町民の代表として藩から大きな権限を持たされており、罪人を取り締まる側の立場だったのに、福永家文書には彼の人相書きが残されています。長英は十二月中旬まで直津津「福永宅」に潜伏・逗留し、つかの間の休息を取ることにあります。そしてこの間に、小林百咄の求めに応じて、大筒台場の設計をアドバイスしたと言われています。

上越の歴史家「渡辺慶二」さんは、古文書やこの地方の伝説から、長英が越後に逃亡したことをつきとめ(「続じょうえつ」市の郷土史散歩」に詳しい)、それが吉村昭さんの創作の参考資料になったとのこと。

五月十八日、海岸そいの舟見公園近くにある、昔の直津津今町、現在の上越市中央町を散策しました。ちょうど「三八の朝市」が開かれていました。多種の野菜・山菜のほか、かわいらしい花の苗もたくさん売られ、路上に彩りを添えていました。朝市の近くに「小林百咄の塾跡」の碑(中央)が、ひっそりと建っていました。その近くには、大肝煎りであった福永七兵衛のお屋敷もあつたはずですが、「福永神社」(中央四)があると聞いて、ついでに訪ねてみました。そこには、直津津の魚商人から「義人」と称されている「福永十三郎」が祭られています。福永七兵衛の先祖に当たる方です。

和算家小林百咄を調べているうちに、はからずも吉村昭著『長英逃亡』に出会いました。そして、長英の生への執着心に圧倒され、長英を匿った人々の数の多さに驚き、また、その人々の「胆力」というべきものに感銘をうけました。(もちろん吉村氏の作品の力に負うことが大きいのですが。)同時に、なぜかくも多



小林百咄の塾跡

くの人が長英に味方したのか、という疑問もわいてきました。長英の人間的な魅力もあるでしょうし、長英の学識を尊いものとしたこともあるでしょう。私は、幕末から明治維新になだれ込む、民衆のパワーの源をみた思いでした。

「洋算」を素材にした小説に『博士の愛した数式』があります。その著者の小川洋子さんは、今年の『文藝春秋三月号』で、「素数」について書いていました。今年の年号の二三三と二〇一一は素数であり、「二〇一一は連続する十一個の素数の和であり、連続する三個の素数の和である」こと。今年は「素数に囲まれた一年」であり、「素数」は「碩丈で、清廉で、粘り強い」とその魅力を書いていました。が、私には、二〇一一年がただならぬ年になる予言のように思えてなりませんでした。



下西 隆子さん

東日本大震災と福島第一原子力発電所

川幣 内山 貢（東原出身）

ていることだろう。

スマトラ島沖地震やニュージーランド地震、南太平洋地震と地球的規模の地震が起こって不穏な感じがしていたが、まさか東北地方に大津波を伴う大地震が起これるとは地震学者も思わなかったらしい。地震予知はなかなか難しい。地震予知連絡会も予知研究に限界を感じ、予知活動を停止するらしい。

地震の為、地盤が一メートル近く沈下したところがあり、満潮時に住宅や道路が冠水する地域が生じた。こういう所の災害復旧として、将来の堤防の一部として利用できる鋼矢板を打つた

として海水の浸入を防ぐ対策を急がなければならぬ。脱官僚の政策をうたう政権下にあつては、国土交通省は事前に災害復旧工事に着手するような

無理なことを控えているのだろうか、マスコミの情報からは何らかの手が打たれている様子が見えてこない。もっとも災害対策補正予算が決まったのは五月に入ってからだ。一刻も早く施工してもらいたいと思つてゐる。

世界的な規模で問題視されている原発事故の放射能汚染の問題は、非常時用の予備発電装置の津波による流出が主因である。設置場所が海側でなく建屋の陸側、即ち建屋の陰にあつたならば状況が変わつてゐたであろう。加えて電力供給線が引き込まれていればこんな状態にはならなかつたであろう。自分で造つた電気で施設を操作してゐて十分だと考えてゐたのだろうか。それが止まつた時、動力源を絶対必要とする特定重要施設・原発には少なくとも二系統の電力供給ができる施設が必要であつた。被災してから動力線の引込み工事をやつたのを見てそのことを痛感した。

原子炉の冷却水注入ができなくなつて東電は何をしていたのだろうか。現地の社員は、直ぐに大変なことになると感じてゐたはずである。しかし、上層部の判断を仰がなければ行動できない仕組みがあり、上層部の確かな指示が出ないまま時間が過ぎたように見える

のは私だけだろうか。続いて一号館建屋の水素爆発、建物が密閉型で造られていたのが仇となつたように思える。空気より軽いガスが建物内に溜まつていたのである。

このことをテレビの映像で見たとき、チェルノブイリ事故と同じ原子炉爆発が起こつたと思つた。内閣官房長官の記者会見ではたいした事がないニュアンスで語つてゐたが、原子炉建屋内の配管類等が地震で壊れたか、爆発で壊れたか区別が付かなくなつてしまつた。国会で東電副社長は、議員の執拗な質問に答え個人的には、この事故は人災だと思つたと述べてゐるのをテレビ中継で見た。

その後、放射能が拡散して、避難を余儀なくされた人たちは本当に気の毒だ。地域の人たちの苦勞の程が思いやられる。一日も早く原子炉の安定化が進むことを念じてゐる。



三月十一日午後、大揺れの地震、しかも長くだんだん強くなるので、外へ飛び出した。道路の上を通る電線がまるで縄跳びの縄を何本も廻すように揺れてゐた。ここ埼玉県中部でも震度5の強さだつた。テレビを見ると、宮城県東方沖を震源とする大地震だつた。津波警報が出され六メートルを超え津波の襲来をテレビは告げてゐた。この時、震源域では、海底が百メートル近く東へ移動し二十メートル以上跳ね上がったと、その後の調査で判明した。その跳ね上がり高にほぼ等しい大津波が海岸地方を襲つた事になる。惨澹たる情景のテレビ中継を心凍る思いで見た。この惨状を見て、わが家としては破格の額の義援金を市へ預託した。今ごろは誰かの手に渡り役に立つ

桑取谷の小正月行事

市川市 平井 光夫（上越市西山寺出身）

私の出身地を見ても、どこにあるかわかりになる方は少ないでしょう。旧直江津市の西のはずれの桑取谷にある小さな集落ですが、十数年前に出来た「くわどり湯つたり村」に向かう途中にある集落と言えば、何となくどこなところかわかる方もいらつしやるかもしれません。

この桑取谷一帯では、毎年一月十五日前後に行われる、「鳥追い」や「サイノカミ」などの小正月行事が今も行われています。私も中学生くらいまでは小正月行事に参加した記憶がありますが、三十年以上前に高校卒業と同時に実家を離れたため、それ以来、小正月行事に参加したことはありませんでした。今年は一月十五、十六日が土日だったこともあり、急遽十四日の金曜日にも休暇をとって、三十数年ぶりに故郷の小正月行事を体験してきました。五十歳を過ぎ、若いころ

より郷愁の念が強くなってきたことも理由かもしれませんが、ちょうど寒波の襲来で大雪となり道中大変でしたが、逆に小正月らしい雰囲気味わうことが出来ました。

以下、その時の模様です。

まず、一月十四日の夜は、我が西山寺集落の「鳥追い」です。桑取谷の鳥追いは、子供達が鳥追い唄を唄いながら集落を回るといふのが多いようですが、西山寺は集落を回らずに村のお宮の前で太鼓をたたき、それに合わせて子供達が鳥追い唄を唄います。夜八時頃にお宮に子供達と大人達が集まります。我々の時代は、子供は男だけだったと記憶していますが、今は子供の数が少ない影響か女の子も参加しています。集まるとまず宮司が祝詞をあげ、参加者が玉串を捧げます。そし

て夜の九時頃から十一時頃まで、一時間おきくらいに三回（一番鳥、二番鳥、三番鳥といいます）太鼓の音に合わせて鳥追い唄を唄います。

「こーりやどこの鳥追いだ。カシラ切つてシヨ（塩）つけて、コンダワラへほうらいこんで（放りこんで）、佐渡島へ、席がないから鬼が島へ、ほほほ」

害鳥を駆除し、五穀豊穡を祈願する唄なんでしょうが、この害鳥とはもともと（江戸時代？）は、トキのことだったと聞きました。唄の間には、子供たちはお菓子やジュース、大人たちはお神酒を飲んで語らいあいます。私が子供だった頃一緒にお菓子を食べた仲間が今は酒を飲み、その子供たちがお菓子を食べているというふうな世代は代わりましたが、

鳥追い唄は当時と同じ唄い継がれており、子供たちが我々の時と同じように大きな声（小さな声では、「そんな声では鳥が逃げていかないぞ」と大人たちから怒られます）で唄っている姿は感慨深いものがありました。

翌一月十五日は西山寺集落から1kmほど離れた西横山集落の小正月行事の見物です。私にとって西横山は、母の実家がある集落なので、子供の頃から良く遊びに行つた懐かしいところです。ここの一連の小正月行事は、桑取谷の中でもつ

とも多くの行事が伝えられ、写真家の故濱谷浩が昭和三十一年に「雪国」という写真集で紹介するなど民俗学的にも知られているようです。現在は集落の方々で「西横山小正月行事保存会」を結成し行事の保存と伝承を行っており、上越市の風俗慣習文化財にも指定されています。そのため、見物人も多く集まり、今年は九州の大学生なども来ていたようです。



西横山でも十四日の夜は、子供たちが鳥追いを行い、翌十五日は、まず早朝六時に「水浴び」が行われます。フンドシ姿の男衆が、桑取川に入って身を清めるというものです。川に入る前、村の神主さんがお祓いをし、神主さんに続いて十人ほどの男衆が厳寒の中、川に入って身を清めるといふだけの厳かな行事です。しかし、早朝にもかかわらず、橋の上な

どからの見物人は三十人くらいいたでしょう。あとで聞くと、村の男衆は神主さんだけで、他は地元で活動している「NPO法人かみえちこ山里ファン倶楽部」のスタッフなどとのことでした。

午後は、「嫁祝い」です。子供達は、夜に行われる「サイノカミ」で燃やすワラを集めるため、家々を唄を唄いながら回ります。

「サイノカミワクワク、銭も金も十萬ガリン、結構な十五日でおめでと、祝いましょ、祝いましょ」

その際、前の年にお嫁さんをもたらした家では、子供達がお嫁さんを囲んで子孫繁栄を願う唄を唄います。

「男まけ子まけ、大の男が十三人、ひとつ祝いましょ、もうひとつおまけに祝いましょ」

近年はこの集落にお嫁に来る人もあまりいなく、一般の方からお嫁さんを募集して嫁祝いを観光行事的に行っていたようです。今年は幸運なことに集落内に久しぶりにお嫁さんがいらした家があり、本来の嫁祝いが行われました。そのため、見物人、報道陣も多く、この模様は翌日の新潟日報の一面にカラー写真で掲載されました。



新潟日報に掲載された写真

夜は「サイノカミ」です。

ここ西横山では「オーマラ」と言っています。今年は、村山ト越市長も見物にいられていました。この行事は、大人の男たちの行事です。夜になると男たちは、村の神主さんの家の前の田んぼに集まります。男たちは、この場では基本的に「オーマラ、オーマラ」としか言いません。挨拶も返事も全て「オーマラ」。まずは、山から切り出した三本の神木(コマラ)に集めたワラをくくりつけます。その三本を組んで一本にして立ちあげます。その立ち上がったのが「オーマラ」です。ここからが他のサイノカミと一風変わっています。男たちは、オガラという麻で作ったたいまつを持って、立ち上げたオーマラの周りを「オーマラ、オーマラ」と叫びながら走りまわります。そして火のついたたいまつでお互いの頭や

背中をたたきあいます。なので、みんな合羽にヘルメットという重装備です。厄落としての意味があるので、厄年の人や嫁をもたらした人などはひととき威勢よく「祝われる」ようです。男衆たちは子供の鬼ごつこのように嬉々としてたいまつを振り回し、たたき合います。ちょうど、この村に住んでいる私の同級生も参加しており、私を見つめ「オー、オーマラ、オーマラ(お前もやってみろ)」とたいまつを渡されました。私は振る舞い酒を飲んでいた勢いもあって、「オーマラ」と叫びながら飛び出し「獲物」を追いかけてましたが、逆に後ろから「オーマラ」と一撃され、あえなく転倒。しかし、気分は壮て良い厄払いをしてもらいました。



上越タイムスに掲載された写真

三十分ほどしてたいまつが無くなってくると、男たちは戦い(?)をやめ「オーマラ」にたいまつを投げ、火をつけます。火がオーマラに燃え移ると見物していた

女衆や子供たちは習字やお札を燃やし、長い木の先にスルメや餅を結びつけて、オーマラの火で焼きます。これを食べると病気になるというところと聞きまし。勇壮であり楽しげでもあり、降りしきる雪の中で振り回されるたいまつと燃え上がるオーマラの火は幻想的でもありました。

以上、久しぶりの小正月体験でしたが、昔から伝えられてきた多くのものが失われていく中で、地元の方の努力と熱意、それに子供たちの無垢な心によって、小正月行事が脈々と伝えられていることは、感動すら覚えました。もうひとつ感じたことは雪の中での暮らしの大変さです。私が滞在した二泊三日の間で新雪が一メートルくらい降ったでしょうか。昔なら、大雪の時はとりあえず人が歩くだけの道を確保すれば良かったのかもしれないですが、今は家の前まで車が入ってこられるようにキチンと除雪をしないと生活が成り立ちません。雪の量は昔より少なくなっているようですが、除雪の苦勞は昔より大変かもしれません。郷愁の念により訪れた雪の故郷でしたが、やはり故郷は「遠くにあつて想うもの」であり、私にはあの雪の中の生活はもはや無理だと実感させられた小正月でもありました。

「上越総合技術高校同窓会 関東支部の発足」

大前自明 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

平成十五年、県は合理化・少子化等を背景に上越市内にあった県立高田工業高校（以下「高工」と）と県立直江津工業高校（以下「直工」）の二校を統合して高工の地に新たに「新潟県立上越総合技術高等学校」を発足させ、同時に各科も改称して機械工学科、メカトロニクス科、電子情報科、電気工学科、建築・デザイン科（二十一年に新設）、環境土木科の六科体制とし現在に至っています。

今回、高工時代から現在に至る同窓会東京支部、関東支部発足について紹介します。

「高工同窓会東京支部」は、昭和四十四年四月一日に発足し、幾多の活動をしてきましたが、昭和五十年前後に活動が停止してしまいました。昭和五十四年に再発足した高工同窓会東京支部も、平成二

年の野球部甲子園出場時に数百万円の寄付金を集め、高工同窓会本部に送金するなど活発な同窓会活動を続けてきました

が、平成十五年頃のバブル崩壊時に再び活動が停止してしまいました。以来十年近くを経、このままの状態にしておくことは、六年後の二十八年に創立百周年を迎える伝統ある高工の関東在任OBとして忍びがたく、直工との統合がなされた今、関東全域を単位とする「新潟県立上越総合技術高等学校同窓会関東支部」として二十二年内に再発足させ、活動の基本となる名簿の整備・作成、母校関係ニュース・会員情報等を内容とする会誌発行などの事業を進めることにより、会員相互の親睦を計り併せて母校の発展に寄与したいと計画しました。

計画の実行に当たっては、設立準備会、三回の発起人会等の会合を重ねつつ、再

発足趣意書、設立総会案内書などを作成しましたが、少子高齢化時代の流れと共に考え方や個人情報的重要性など、発起人達の若かりし頃には思いもよらなかつたようなことが法令化されたり規範になったりして、名簿等入手が困難であつたり古いままであつたりしていました。このため、活動上スムーズに欠けるところはありましたが、同窓会本部Jネットからのご支援・ご協力を得ながら準備を進めました。

平成二十二年十一月十八日（木）、東京都台東区の新潟県人会館で、新潟県立上越総合技術高等学校同窓会関東支部（略称「上越高同窓会関東支部」）発足総会が開催され、出席者全員の賛同を得て発足しました。当日は会員四十二名の内半数の十九名が出席し、上越高同窓会本部から古川会長、小熊幹事長、上越高から真貝校長、舟見元教諭に来賓としてお出でいただきました。

総会は、古川会長、真貝校長からの祝辞をいただいた後、藤沢発起人から①ご来賓へのお礼、古川会長、真貝校長、舟見先生、金子重雄氏からご祝儀、同窓会本部から組織強化費をいただいたことへのお礼、②発起人達は、ボランティアあるいはこういうことが好きだから行つたわけではなく、OBの1人として、い

つか誰かがやらなければならぬことを実行したこと、③発足総会案内について、第一段階として東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県在住の昭和二十八〜四十年卒OBへ七百三十六通郵送したこと。結果は人会回答四十二人、内十九人から発足総会への出席回答、入会せず百三十四人、死じ者二十三人、転居先不明による返送三十九通、無回答四百九十八通であつたこと、④高工同窓会名簿からの関東在任OBの抽出・整理、資料印刷、封筒宛名印刷・封入、郵送手続きや回答ハガキを受取人払いにしたこと等は、「ネット東京事務局が全面的に支援してくれた」によるものであり深く感謝しているとの報告がありました。

その後①会則改定（案）、②グループの登録等について（案）、③二十二年度事業計画（案）、④二十二年度予算（案）の説明があり、審議の結果、異議なく承認され、役員には次の方々が選出されました。

支部長 .. 藤沢勝一郎（Jネット理事、

Jネット運営委員会委員）

副支部長 .. 木澤茂雄（Jネット会員）

幹事 .. 岩井義一、仙田貞文、弓納

持和男

会計監事 .. 福田裕（Jネット監事）

顧問 .. 安藤三郎

藤沢支部長から、予算執行に当っては、予算項目として計上していないものの、本日に至るまでの発起人会議等に要した交通費および郵便代等は、予算の許せる範囲内で支払いたいとの提案があつて承認されました。

この後、出席者の自己紹介と校旗を前にして記念撮影を行いました。

再発足後、現在まで次のような活動等をしてきました。

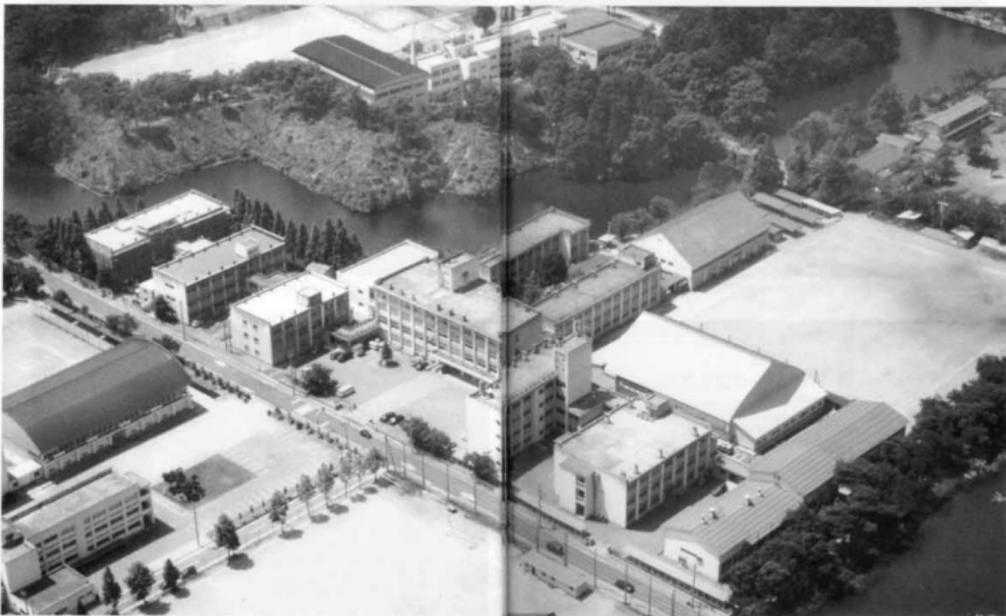
①二十三年四月二十日付けで、関東支部運営支援に要する事務補助等業務委託契約をJネットと締結しました。

②二十三年五月二十八日、新潟県人会館で二十三年度関東支部総会を開催し、議案は全て原案通り承認されました。終了後会員五名と共に、Jネット総会、アトラクション、懇親会に参加しました。

③広報「関東支部だより」は、No1からNo3まで発行しました。

現在は未だ小さな組織ですが、残された群馬、栃木、茨城県在住OB等への入会案内を含め、今後とも着実な活動を行いつつ、所期の目的に向かって努力してまいります。

ここに至るまで、同窓会本部、Jネットからいただいた有形無形のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。



文化講演会の報告

【文化講演会】

平成二十二年年度の「ふるさと上越ネットワーク 文化講演会」が平成二十三年一月二十三日（日）午後四時から「アルカディア市ヶ谷」で開催されました。今回の講師は昨年『おまんた、えますぐ使える、えつちよまえの上越弁』という上越弁のCDを制作された有沢栄一さんです。

小坂恵美さんの司会で、講演に先立ち会長の挨拶があり、続いて上越市自治・市民環境部の野口壮弘部長による上越市の近況報告がありました。

有沢さんの講演は、上越地方の方言の研究を始めたきっかけから、長年にわたる上越弁の収集、CD制作までのご苦労についての話から、上越地域でも地域による方言の違いや、上越弁の方言としての特徴などについてユーモアを交えなが

ら、しかし、終始真摯に話され、和やかなうちにも有意義な講演会となりました。参加者も八十人を超え大盛況でした。引き続き懇親会の会場に移動しました。

【懇親会】

懇親会は「岩の原ワイン」のウエルカム・ドリンクでのどを潤す中、勝島敬明副会長の司会で、まず、大雪の中を上越から駆けつけて頂いた松川太賀雄副会長にご挨拶を頂きました。引き続き、ふるさとの銘酒「よしかわの杜氏」の鏡開きを行い、榊原政信相談役の音頭で乾杯、開宴となりました。

沢山の料理に加えJネットのレシピで調理されたスキージの大鍋をはじめ故郷の懐かしい食材や牧区の「ごぶろく」を楽しんでいただきました。

続いて恒例の抽選会が始まりました。

多くの賞品が用意され、ほとんどの参加者にお持ち帰り頂いたようです。

今回は懇親会に毎回ご出席いただいている榊原相談役、サロンに最多出席の早川美津江さん、サロンで使用している「ぐい呑み」を沢山焼いていただいた野田ヒロ子さん、「お元気ですか」に連載の徒然草が十二月で百回目になった杉臣武さんに、Jネットからお礼の粗品をお贈りしました。

中締めは勝島さんの音頭で春日山節を斉唱し、上越市議の滝沢一成さんによる元気の勝開でお開きとなりました。

参加頂いた皆様には事務局が用意した精米したばかりの「くわどり産コシヒカリ（四百グラム）」をお持ち帰り頂きました。

有志による二次会が二階フォオッセで続きました。



講師の有沢栄一さん



和久井会長



野口壮弘自治・市民環境部長



名酒「よしかわ杜氏」の観開き



松川副会長の挨拶



よしかわ杜氏の里の山本支配人



榎原相談役による乾杯



森洋子先生を囲んで





いくつになっても当たって嬉しい抽選会



司会の勝島副会長



抽選会は岡村普運宮委員が大活躍



雨にも負けず東京サロン最多出席の早川美津江さん



「お元気ですか」に連続100回寄稿に感謝!! 杉臣武さん



野田ヒロ子さんからのサロン用「ぐい呑み」寄贈に感謝!!



上越弁で話す有沢さんと松川さん



全員での勝間「エイエイオー」



二次会を楽しむ会員達

越後高田と地震

川崎市多摩区 竹林征雄（高田市大町二丁目出身）

「その日」

三月十一日の東日本大震災により亡くなられた皆様、被災者として、二次的派性の福島第一原子力発電所事故による避難、被災された皆様へ哀悼の意とお見舞いを冒頭に申し上げます。

私は、地震当日、ある会社の集まりで、石垣島でバスに乗っていた。巨大地震を知ったのは仲間の方への家族からの一本の電話からだ。自分の家族などの安否はその日の夜遅くに携帯のメールで漸くわかり安堵した。しかし、その時以降、旅行のすべての予定は狂い、帰りたいとも飛行機が飛ばず、翌日やっと沖繩まで戻り、更にその翌十三日の最終便の飛行機で自宅へ戻った。

機内では、知り合いの気仙沼のカキ養殖者、勤め人時代の東北支店の人々の顔、那山の友人、浪江町の自動車リサイクル

会社の経営者、そして事故を引き起こした福島原発第一号炉の自分が設計した炉心冷却ポンプの事などが頭のなかを何度も駆け巡った。さらに、地震のあった十一日の丁度一週間前、福島第一原子力発電所を見てきたばかりであり、地震が一週間早く襲って来ていたら、と思うと背筋がぞっとした。その折、昼食で寄ったホテルからのんびりと見ていた海に張り出した岩盤上の岡倉天心住居跡の六角堂を思い出していた。六角堂は建物の朱色と波の輝く白さ、そして海の群青色とのコントラストが何とも言えぬ、記憶に残る景色だった。後で分かったが、その建物はすべて津波により流されていた。

当日あの瞬間、私は釜石に気仙沼に、南三陸や浪江町に、そして天心の五浦海岸のあの場に、たまたま居なかったから生きて、今があり、駄文を書けるのだ。

この拙文は私のこれまでの能天気な生活を顧み、生きてゆく覚悟、これからやることは何かがあるのかなどを、わずかにでも考えるよすがに、と記す次第。大方の方から見たら、失笑もの、そして古希を迎える身には時すでに遅しとの感ありなのだが。

「日本列島は傷だらけ」

日本には大きな断層が二十五、小さな断層は二千箇所を越える。まさしく傷だらけ、満身創痍の列島である。北は北海道から石垣島まで、地震や津波被害を受けない土地はない。比較的地震が少ない県は、私の記録の見落としが無ければ、群馬、岡山、山口、島根、福岡、佐賀などぐらいい。主な地震の記録は、紀元前百年頃の仙台大地震・巨大津波として、かすかに残っている文献に始まり、現在までに三百四十ほどが文献や近年の観測データとともに記されている。一九〇〇年以降は観測技術も進歩し、より詳細な記録が残されている。ここ百一年間での地震発生回数は約四百四十を数え、平均すると年間一・二回の地震が起きています。言ってみれば、日本のどこかで、大きな地震が毎年起きています。定だ。さらに地震観測精度があがった一九二六年から二〇〇八年までの八十二年間で、地震が発するエネルギーの大きさを表すマグニチュード(M) 6以上の地震記録は九百六十回を数える、と防災科学研究所から公表されている。これは何と単純計算では毎月一回はM6クラスが日本のどこかで発生していることになる。今回の地震のMは9と日本の歴史上最大であり、その揺れの程度を表す震度も7、東北の多くが震度6、関東で5強によりあれだけの大騒動、被害となった。地震と火山噴火なども関連性が強く、その上台風も多い列島である。このように二重三重に災害に見舞われることの多い列島であることを改めて意識して生活をしなければならぬ。これは宿命である。今一度腹を括らざるを得ない。しかし一方で、日本は地球の息吹をどこの国よりも身近に感じ、自然の豊かさ、四季折々の恵みを頂いていることにもなる。

「関東大震災と東日本大震災」

これまでの日本の地震ワースト記録は大正十二年、一九二三年九月の昼食の時間帯に起きた「関東大震災」である。この時のMは7.9、震度は7であった。死者と行方不明の総計は約十五万人、全半壊家屋約二十二万戸、焼失家屋約二十一万戸、被災者数約九十万に達した。震源地は小田原から三浦半島近辺にかけてである。大多数の方々は東京での被害の大きさを思い浮かべるが、地震そ

のものによる被害は震源地が相模湾であったため、建物の倒壊などは神奈川県の方が数倍大きかった。しかし、東京では、昼食時間帯で、折からの強風と、地震により引き起こされた百三十六ヶ所からの一斉火災が、木造家屋の密集した下町を中心に被害を大きく広げた。地震被害とは逆に火災被害は、東京の死者数を横浜の約二・五倍へ、焼失家屋は約五倍となった。この地震では火災が被害を拡大したと言える。ちなみに、このときの地震による津波波高は、鎌倉で三メートル、そしてそれによる死者行方不明者約三百人、ほか三浦半島で六メートル、熱海と伊東が十二メートルとなっている。

関東大震災から八十八年たった今、まさに東京をM7・8の巨大直下型地震が襲ったと仮定すると、中央防災会議は一万千人の死者、全壊及び焼失家屋八十五万棟、国家予算規模をはるかに上回る百十二兆円の経済損失としている。しかし、今回の震災と津波に伴う災害に対して、閣議が決めた呼称「東日本大震災」が引き金となり、関東で巨大地震が起きる確率は高まったとし、国はすべての被害想定を見直し急遽対応検討に入っている(財都市防災研究所の関係者から話を聞いた)。

気象庁発表の地震名で「東北関東大地震」は、世界ワースト記録の歴代第七

位となり、「東日本大震災」は関東大震災をはるかに上回る規模となった。今回の地震は千年に一度の巨大地震と言われ、M9は阪神・淡路の約千四百倍のエネルギー放出であり、日本記録を塗り替えた。震源域も約五百キロメートルと途方もなく長い。被害状況は新聞で毎日公表されており警察庁発表では、死者一万五千二百七十人、行方不明八千四百九十七人、避難者は当初の二十万人から十万人、二十一人と減りはしたが、今もって十万と言った数値を越えている。死者などの55%が六十五歳以上であることも時代を映している。このほかに、全半壊と浸水家屋が約十八万戸、漁港被害は岩手、宮城、福島の一七十七

漁港中二百六十、漁船は二・六万隻、瓦礫は千五百万トン(タンク)二百四十万台分、廃自動車十四・五万台で、被害総額は二兆円を越えると言われている。話はそれるが、この地震での東京は震度5強で、死者七名、三百万人の帰宅困難者を生み、一日近く交通も通信も機能せず、高級住宅地浦安は液状化で大きな被害を受けた。

東日本大震災の被害特徴は地震そのものと言つより大多数が津波によるものであった。しかも天災と言つるか人災と言つか、東電福島原発事故が追い討ちを掛け、この被害総額が五兆円と、巨額な数字だ。

地震、津波、原発事故、風評被害、さらにお粗末な政治と、被災地に取り五重苦と言つこれまでにならないものである。これは今後の二十一世紀社会への大変動を示唆しているのだろうか。哀しく、情けないことこの上ない状況だ。

今回津波による遼上高の最大数値は宮古で三十八・九メートルを記録し、遼上高三メートルを越えた地域は宮古から久慈までの沿岸十二キロメートルにも及ぶものであったことが東大地震研の調査でわかった。大津波で、東北の至る所に「こより下に住むな」と言う石碑、古文書、口伝があったにもかかわらず、住まい、公的機関を浜辺近くにどんどん造ってきた。これまでの津波最高記録は、驚くべきことに一七一年に八重山諸島を八十五メートルもの津波が襲った。世界では一九五八年アラスカで五百二十メートルを記録している。

月の引力は海水に働き、潮の干満を生じさせる。同様に、引力は地球自身にも働き、この現象を地球潮汐という。地球潮汐による力が断層の滑りを助ける方向に働いている時に、地震が多く発生していることも解明されている。そして断層に加わる力は地殻のひずみによる力の約千分の一に過ぎないが、十分にひずみがたまつた断層に「最後の一押し」として働いて今回の地震も発生したと学者は言

う。
地震発生の午後三時前後の潮の干満は、幸いなことに上弦の月の小潮干潮時で津波被害は軽減されたにも拘わらず、大惨事となった。これが大潮満潮時であったら、各地で、さらなる大災害となつていただろう。

釜石の海底から高さ六十三メートルの巨大防波堤を津波が乗り越え、防波堤を破壊してしまつた。防波堤が津波の力を弱めたことは間違いがないが、自然景観、生態系を損ない、三十一年の歳月と約千二百億円の費用を掛け、ギネスブックにも記載されたこの防波堤とは何だったのだろうか。海沿いに住んでいた被災者の方々は防波堤で守られ、安全と通信し、一部の方は明治、昭和の巨大三陸地震のことを失念していたとの言葉も聞く。そう、明治の物理学者で名随筆家寺田虎彦の至言「天災は忘れた頃にやってくる」が今思い出される。

五月二十六日の朝刊には二〇〇年前後、一七〇七年と千年に一度ではなく、これまでに五百年前後の間隔で巨大地震があったと産業技術総合研究所と広島大学が発表している。また、京大鎌田浩毅教授は六月号の文藝春秋で、三月十二日の長野栄村での内陸部直下型地震は巨大地震による誘発であり、高田の人々の記憶に新しい二〇〇四年、二〇〇七年の新

潟県での大地震も直下型で、今後、この手の直下型地震が当分誘導多発する可能性を示唆している。

「越後高田の地震」

それでは、ふるさと高田の地震に関する歴史はどうなっているだろうか？と雑ながら記録を漁ってみた。地震と津波の記録は様々な関係機関から発表されている。たとえば、日本地震学会や、理科年表、地震調査研究推進本部事務局（文科省研究開発局地震・防災研究課）、独立行政法人防災科学技術研究所、様々な大学などから震源地がM7以上、または震度で最大6弱以上、死者・行方不明者一人以上の条件に当たる記録が開示されている。色々な機関から、主な地震年代表も出ており、引用、表現もほぼ同じものもあるが、異なる記述の箇所もある。それらの中から、震源地が高田界限のものを拾った。それを纏めたのが九ページの表である。記録のある八六三年以降を見ると、何とその回数には八回に及び、単純計算では百四十年に一回、高田は大地震に襲われている。

今後高田でこの三十年以内にM7クラスの大規模地震が発生する確率はほぼ0.8%とある。地震調査研究推進本部資料によると高田には「高田平野断層帯」があり、この断層帯の平均活動間隔は

一七五一年の宝暦の地震を起点として、二二〇〇～四八〇〇年程度の可能性とされ、この数字を信用するならば多少は安心出来る。高田平野東縁断層帯は、高田から妙高に至る、長さ約二十六キロメートルの断層帯で、概ね北北東～南南西方向に延びている。この断層帯の近傍には関わりたくないものだ。

高田平野の地震は、越後平野や粟島周辺の地震と連動することが多いようだ。例えば一六六六年寛文の高田地震の四年後の一六七〇年に西蒲原地震、一七五一年宝暦高田地震の十一年後に一七六二年佐渡沖地震、さらに一八二八年三条地震のあと一八三三年の庄内沖地震

一八四七年善光寺地震、一八四七年弘化高田地震と続いている。間隔から言うと、一六六四年新潟地震の前後に高田の地震があつても不思議はなかつたが、このときは高田は無事であつた。その代わりに少し南で一六六五年から一六六七年にかけて松代群発地震が発生している。このように、粟島周辺から越後平野とこの地域の地震には比較的規則的な繰り返しと連動の関係性が認められるので、一方で発生した場合はもう一方の地域の中期的予測の有力な判断材料になるとされている。平成二十二年に東大地震研の佐竹健治教授らが古地震・津波等の史資料収集解析を行っている。これらの詳細な解

析が進むと地震の地域連動性や詳しい地震の歴史が明らかとなり、今後の震災対応策がたて易くなるものと考える。

高田の三大地震と言われているものに寛文、宝暦、弘化の3つがあり、ほぼ百年の周期で起きている。これらの地震を見てゆくと、親覺ゆかりの淨興寺のHPへ飛び、そこには、一六六六年寛文五年十二月二十七日夕方に起きた大地震で淨興寺の堂宇が崩壊し、時の藩主松平光長公の市街復興計画に従い現在の堂宇を建立された、と出ていた。見ているうちに、高田に居た頃、寺町にある先生や友達の家に遊びに行ったことや本堂裏手にあつた親父などが眠る墓、そこからの田んぼの向こうの愛の風あたりをぼんやりと眺めたことなどが思い出された。その本堂は大正の寺町大火からも逃れ、建立以来約三百五十年の月日が流れている。尚、その年の暮れは大雪で約四二メートルの積雪があり、火事騒ぎの中で雪で逃げ場も無く約千五百人の死者が出たとある。幕府は米三千俵の見舞いを出し、越後騒動で有名な家老小栗美作は幕府から五万両を借り受けて復興した、と市史に出ている。

「宝暦元年越後越中地震」

ここで、高田地方最大規模の地震であつた一七五一年の「越後越中地震」と

呼ばれる地震について述べておく。

姫路から寛保元年、一七四一年に高田へ国替えてきた十五万石の高田藩主榊原は、丁度その十年後にこの大震災に見舞われた。時は宝暦元年四月二十五日の夜中に起きたものであつた。この地震による代表的な被害は、直江津と糸魚川の間の各地で多くの山崩れが起き、死者が出た。特に、標高百メートルも切り立ち、東西一キロメートル近くも海にせり出している名立の断崖絶壁が、地震と雪崩により崩れ落ち、集落は海底に埋没すると言ふ悲惨な状況となつた。そして、名立小泊村の九十一戸の村は三軒を残し全滅し、四百六人が死亡するなど、この地震は多大な被害をもたらした。その痕跡は現在、名立大町の宗龍寺の裏手に見られる崩落崖である。このとき起つた「名立崩れ」の名残である「名立崩れの露頭」は現在の北陸自動車道「名立谷浜」インターの直ぐ下に見られる、とある。その悲劇の小泊村がいつもの暮らしに戻るまでには百年以上の歳月が費やされたと記録が語っている。

また、高田城も、所々破損し、町の三箇所から出火し、家屋の全半壊は九千三百軒、死者行方不明者の合計約千二百名と出ている。話が横へそれるが、この時代の高田は大会であつたことがこれで分かる記述だ。この震災復興のた

めに、高田藩は幕府に二万両借入れの救済を求めている。この震源は直江津沖の海底下と言われ、規模はM7から7.4と大きく、それで富山・金沢も強い揺れを感じ、日光でも地震が体に感じられたとされ、余震も多かったようである。

余談だが、二つほど、この地震にまつわる話を記す。

一つは糸魚川の(株)谷村建設のホームページに市出身の医学博士種蒔正臣氏が二〇〇五年に書かれた随想を簡単に紹介する。

宝暦元年四月、前田藩主が参勤交代で江戸から加賀に向かい、高田を過ぎ名立で宿泊することとなった。前田公は名立に到着すると間もなく体調の不良を訴えた。お付の侍医が診察するも原因が判らず、北陸街道随一の名医として名高い地元の前田玄伯に診察をお願いした。しかし、玄伯にも悪いところを見つけたことができなかった。相愛むら自身体の不調を訴えつづける前田公に対し、ついに玄伯は「身体に異常なきにもかかわらず不快なのはこの土地になんらかの不吉な事因がある故で、速やかにこの土地をお去りになられるのがよろしいかと存じます」と進言した。納得した前田公は、即時出発の命を下されて名立を離れた。一行が隣村の能生の本陣に着くと不思議にも公の気分が良くなった。その夜、名立

に壊滅的な大地震が起こった。前田公の病は天変地異に反応して精神的な不快を起したものと考えられる。そして「土地に異常あり」と見立てた玄伯は、医学のみならず博学達識な学者であると、一層評判が高まったと出ている。

二つ目は絵の話である。新潟県立図書館にはこの宝暦の地震の模様を海から眺めた海岸部の景観図が残されている。題は「不知親知難所五百三十五間・駒返難所四百間」と長いもので、作者不詳、製作年代は江戸時代というだけである。絵には、この「名立崩れ」の様子が詳細に表現されている。と図書館のHPに文章とともに絵も載っていた。そして、手元の市史にも、高田図書館へ兵庫佐野清輔氏から寄贈された「宝暦地震絵図」が載っている。私はパソコンの中の絵と本の絵を見比べたが、二つの絵は異なるもののようにだ。この地震は大ニユースで、江戸時代何人かの絵師が描いたものがあちらこちらに残ったのではないだろうか。昔も今も大震災には多くの耳目が集まることとが分かる。

「その後」

経済の成長により都市も人も沿岸へと集まり、都市は巨大化し、特に東京は一極集中化していた。しかも原子力発電所も、都市も住宅地もいよいよ加減な調査に

より、活断層の上、または近傍に、そして埋立地などに建設されているところも多くなり、危険極まりないことだ。

高田の人間なら誰しもが知っている有名な断層は「糸魚川静岡構造線」である。これは、親不知から諏訪湖を通って、静岡の安倍川に至る大断層線である。しかもこれは日本最大級の活断層で、今後の地震発生確率が最も高いもののひとつと考えられている。日本アルプスは糸魚川静岡構造線に沿って造られており、飛騨山脈や赤石山脈の高山が沿線に連なり、主な山としては、白馬岳、乗鞍岳、上高地、赤石岳、身延山などが険しい稜線を連ねている。高田は糸魚川から地理的に離れている、遠い先の話と考えず、冷静に今からでも、大地震のリスクマネジメント、企業では事業継続性、個人でも家族と住まいの安全についての準備をすることが必要ではなからうか。

損失八十一兆円としている。繰り返すが、東京直下型大地震が起こると損失は百十五兆円であり、これはさらに膨らむ恐れがある。こんな想定は教授には悪いがはずれて欲しいと願うが、虚しく衰しいことになるのだろうか。

前出の鎌田教授は富士山の噴火の恐れについては述べられ、さらに恐ろしいのは南海トラフ沿いの東海・東南海・南海の三連動型によるM9クラスの巨大地震が、二〇三〇年代には西日本一帯に必ず起きると、危機感を募らせている。この巨大地震は百年間隔で発生しており、しかもその三回に一回は超弩級であり、次回はこの周期に当たるとし、被害想定は、犠牲者一五万人、全壊五十五万棟

地球科学的に考え、日本主土が間違はなく本格的な変動期に突入したと言われている。このように日本は地震、津波そして火山の爆発、台風などに暮らしている。脅かされている。自然の力には逆らえないが、上手にかわしつつ、自然と付き合う方策を普段より一層考えておく必要がある。今回の東日本大震災で分かる通り、科学による力では自然の力をねじ伏せることなど出来ない。技術に依存、技術を過信していったことを十分に謙虚に反省してみてもどうだろうか。災害を恐れるが、怯えることなく、自然を理解し、冷静に自らの生活を考え、自然を敬い、自然との協調、共生を目指して生活と生産を考えることができます。大切ではないだろうか。その上で今一度、科学・技術と生活様式、自然環境などとの関係と調和を図らねばならない。

四月末、古希となる駄馬の身に拍車を掛け、会議とボランティア活動のため被災地東北へ行って来た。地震と津波が砕いた被災者の方々の人生と生活を自分が出来る範囲で支え寄り添い、自分の資

産、能力(体力、知識、経験)、時間などを合せて何ができるか、何をすべきかを考えた。どうも義援金だけ出せば事が済む話ではないのではないかと思ひ始め、機会をとりえて行つてきた。電車が仙台までしか通じていないので、後は車で石巻、女川、南三陸、気仙沼、陸前高田、大船渡を廻り、南三陸町歌津地区へ戻り三日間ボランティア活動をした。仕事は物資の運搬、漂流物の収集運搬などを主に行い、立ったままの食事や TENT泊りであつた。南三陸町は志津川町と歌津町が合併した町で、まさにカキ、ホタテの養殖、鰯漁などの漁業が主体で、何もなければ、のどかで魚付き林の緑豊かな入江だ。被害は死者と行方不明者約千二百名、五千四百戸のうち全壊家屋が三千九百を数えた。物的被害は甚大だが、死者行方不明者が人口の割に少ない。それは口伝などで急いで逃げる事が徹底していたからと聞いた。しかし、震災当初は九千五百名が避難生活をされ、今でも人口約一万七千人の三割に相当する五千人の方が体育館などで避難生活をされている。そして地盤が〇・七五メートル沈下し、水平方向に四・五メートル移動した町である。

現場はTVの枠のなかを見るのと、大違。バイパス道路の巨大なコンクリート製の橋が三十メートルも吹っ飛ばされ、電車の駅舎も流され、陸に打ち上げられた船、ひしゃげて裏返しになつた車、壁がなくなり柱だけになり向こうの景色が見渡せる建物、道路の両側は延々と瓦礫の山の惨状が眼一杯に広がる。砂塵が風に舞い、ウミネコがぐずと化した大量の魚の上を飛び交ひ、その魚の腐臭が鼻を突く、そしてトタン板などが風に煽られて不気味な音を響かせていた。そして、すべてが無くなった風の中、見通しが良くなりつつありとした海岸と、道の両側が瓦礫の山となつた曇りの夕暮れの風景。その道を手拭で頬被りした老人が一人、小さなビニール袋を持ち、とほとほと歩く背中にはなんととも言ひようのない寂寥感が漂つていた。無力で、浅知恵、猿知恵でしかないこれまでの己の狭い考えと愚にもつかぬ行動に改めて気付かされずにはいられなかつた。

被災地での乏しい体験から少し見えたことは、世界も日本も資本主義の波やグローバル化の波に乗り、経済性、効率化、巨大化、集中化、お金と言ふ言葉が何よりも重いものに思われ、踊らされてきた感がある。近代科学・合理主義にも限界があるのではないか。ここ十年ほど、社会は格差社会、不安な怯えの時代でありながら、ぐずぐずと無駄な時間が流れていった。これに追いかふせ、虚しい響きの想定外と言う大震災、災禍が見舞つたのだ。今、三・一一を契機に、文明の形そのものの見直しと社会の枠組みを変へることが求められ始めていると感ずる。昔の日本の農耕漁撈社会は共同作業社会で、そこには忘己利他、先人後己などと利他的精神や共生、共助が芽生え、欲望の制御が出来ていた。近年は、この思いが欠けていたというか、たいして意味を持たない多忙と多くの物に囲まれ、お金を多く持つことが幸せ、と勘違いをしてきた。プータンの国民総幸福量のような公共哲学が我々にも必要ではないか。満足とは何か。多くの人は震災で目が覚め、「形あるものは壊れる」、「何が本物で大事か」が見えてきた。これまでの「無関心から繋がり」と絆、「冷たいお金から温もり」や意思あるお金の使い方、「画一巨大集中化から多様性と小規模分散化」などの声が聞こえ始めた。

一八二八年文政十一年十一月の「三条の大震」の際、良寛が与板の友、山田杜阜への地震見舞いの手紙に「地震は信に大変に候。野僧草庵は何事もなく、親る中、死人もなく、めで度存候。うちつけにしなければならずながら、うらきめを見るがはびしさ。しかし災難に逢ふ時節には災難に逢がよ候。死ぬ時節には死ぬがよ候。是はこれ災難をのがるゝ妙法にて候。かしこ」に見られる精神。そして、二十四句の長詩「地震後詩」では、「凡て物微自ら頭に至るは、亦尋常」とある。すべて物事は小さなものからだんだん大きなものになつていく。それが普通の生き方である。賢沢ん風潮といふものも、まだ小さいうちに人々が心を入れかえて身を正していけば、このよくな災害にならなかつたのに、人々がとめどなく賢沢に走つたから地震が生じたのだ。とうたつている。ふるりの良寛は捨てる事を考え、富の拘束よりは貧の無拘束による自由を選び、自身のことをまさに大愚、愚直、風顛、褊褻と言ひ、我執を一切取り払つた。だからこそ、このよくな思を抱いたのだと感ずる。天災と人の行いとの間に関係性があるのか無いかは問いたくはないものだ。因みに、私の中高の同級生北川若菜さん弟のフラム君の父君省一氏は良寛研究家であり「漂泊の人 良寛」を朝日新聞から出されてる。

被災の地に、自然はとつてもない地震・津波を引き起こし、情け容赦なく苛酷で無情の雨を降らせた。しかし、自然は時が巡り、何事もなかつたかの如く、一階まで津波がきた伊里前小学校の校庭にも拘らず、椿が咲き、桜が咲き、花壇には津波にも残つた水仙が香りを振り撒いていた。自然は食物を育て、魚を育てて我々に恵みをもたらし、本当に不思議と優しい。この落差はなんなのか、と考へつつ

大地荒々として 智斯の如し
 我独り 野陶たるも 尚誰にか 訴えん
 凡て物微自り 顯に至るは 赤尋常
 這箇の災禍 尚 運きに似たり
 屋 震度 を 失 う こと 何ぞ能く 知らん
 歳 序 節 無き こと 已に 時 多し
 若し 此の 意を 傳は 須く 自 省すべし
 何ぞ 必す しも 人を 怨み 天を 咎めて
 女用にと 宛らんや

地震は、信に大変に候。

野僧草庵何事なく候。

報類中、死人もなくめで座存候。

うちつけに 死なば死なすて 存へて

かかる憂き目を 見るがはむびしき

しかし災難は 連時節には災難に違がよ候

死ぬ時節には死ぬがよ候。

是はこそ災難を逃るる 妙法にて候。

かしこ

良寛

嵐八

山田杜卓老 良寛

西 暦	和 暦	名 前	M	死者	記 事
863-7/10	貞観 5-6/17	越中 越後			直江津付近にあった数個の小島が壊滅したという
1502-1/28	文亀 1-12/10	越後 南西部	6.5~7	多数	直江津で潰家、会津でも強く揺れる
1517-7/18	永正 14-6/20	越後			倒家が多かった、詳細不明
1614-11/26	慶長 19-10/25				従来、越後高田の地震とされていたもの。大地震の割に史料が少なく、震源については検討すべきことが多い。京都で家屋・社寺などが倒壊し、死2、傷370という。京都付近の地震とする説がある
1666-2/1	寛文 5-12/27	越後 西部	6.75	1500	積雪14~15尺のときに、高田城破損、侍屋敷700余潰れ、民家の倒潰も多かった。夜火災
1751-5/21	宝暦 1-5/26	越後 越中	7~7.4	1541	高田城で所々破損、町方3ヶ所出火。鉢崎・糸魚川間の谷で山崩れ多く、圧死多数。震源地は直江津沖下。
1847-5/8	弘化 4-1/1	越後 高田	7		諸所破損、長屋も破損 震源地は高田平野南部の山際
1847-5/13	弘化 4-3/29	越後 頸城	6.5	松本 含め 8000 とも	善光寺地震の被害と区別できないところが多い。潰家・大破・死傷があり、地割れを生じ、泥を噴出し、田畑が埋没したところもあった

ふるさと便り

―「上越タイムス」の記事より―

高田駅にエレベータ完成（十一月）

JR高田駅にエレベータと新跨（こ）線橋が完成。上下線ホームの跨線橋脇に各一基エレベータが設置され、年配者などから喜ばれている。また従来の跨線橋は廃止となる。



北陸新幹線 長野～金沢 四年後に開業へ（二月）

平成二十七年三月に開業予定の北陸新幹線。上越市内では全工区で高架橋の設置を完了し年度内には一本の構造物としてつながる予定である。引き続き消雪軌道、電機などの設備工事を進めていく。飯山トンネル内では線路の敷設も始まっている。糸魚川市は、高架橋が市街地を東西に貫き、国道八号線東バイパスと並行する。待望の開業までに、駅名問題、全列車の停車問題、在来線の経営や大糸線の存続などの課題が山積している。



柿崎の楞厳寺本堂、山門が文化財に指定（二月）

柿崎の歴史を伝える、曹洞宗寺院楞厳寺本堂と山門が登録有形文化財に指定された。郷土の武将柿崎和泉守景家の菩提寺であり、一五三四年に創建された。六日町の雲洞庵と兄弟関係の建築。



きょうなら人気者ジョー（二月）
「立つアザラシ」として人気の高かった上越水族館のゴマフアザラシのジョーが老衰のため死んだ。立った姿で水槽を漂う姿がテレビなどで紹介され、多くの来館者を集め人気者だった。ジョーは野生のアザラシで昭和五十五年小樽水族館から来た。推定年齢三十三歳、人間に例えると約百才の長寿であった。



レルヒ祭「前夜祭」（二月）

本町商店街でレルヒ祭「前夜祭」として「くびき野食の祭典」「レルヒ屋白村」「丁級グルメ」などの食のイベントが繰り広げられ、大いに賑わった。

レルヒ祭に三万八千人（二月）
 金谷山スキー場と本町商店街で開かれた日本スキー発祥百周年記念「レルヒ祭」が三万八千人を超える人出を記録した。加藤清四郎君が出演した「たいまつ行進」や食の催しなどが集客に大いに寄与した。



ふるさとの歌 諏訪村歌のCD完成
 （三月）
 昭和三十年に高田市に編入された旧諏訪村の村歌を歌ったCDが完成した。CDには、旧諏訪中学と旧津有中学の校歌、諏訪小学校校歌が収録されている。

建物被害続出



一斉雪下ろし実施

上越地域に二年連続の豪雪（二月）
 上越地区は昨冬に続き豪雪に見舞われた。上越、妙高市では災害救助法が適用され、高田市街地では一斉雪おろしを実施。



名立区赤野俣で寒中みそぎが復活（二月）
 名立区谷口の天王滝（大滝）で約十年ぶりにみそぎ錬成会が実行された。



春を呼ぶ桑取川河口の風物詩、カタノリ採りが最盛期を迎えた。住民総出で、冷たい海水で育まれた上ものカタノリを採集した。



上越市で震度5強 (三月)

「まさか一日続けて」。前日三月十一日の揺れを上回る地震が、三月十二日未明に上越地方を襲った。長野県北部を震源とする地震があり、長野県栄村で震度6強、上越市で震度5強、妙高市で震度4を観測。余震も続いた。一連の地震で、建物の半壊一棟、一部損壊住宅百二十二棟、公共建物でも三十三棟に被害が発生した。震度6強を観測した栄村と山を挟んで隣り合わせの安塚区では約六十人がキュービッドパレイスキー場に居たが無事。ただ飲食器具に多大な損害が見られた。激震災害に指定された。



レルヒ少佐の生誕地スロバキアから大使来越 (三月)

レルヒ少佐の生誕地、スロバキアのシウトス駐日大使が来越し、金谷山の日本スキー発祥記念館を訪れ村山市長と会談した。少佐は首都のプラチスラバ生まれ。当時はオーストリアハングリー帝国であった。



善導寺の善導大師立像 国重要文化財に指定に (三月)

寺町二丁目の善導寺の善導大師立像は高さ百二十七センチ。唐代浄土教の大成者善導大師の像で、鎌倉時代中期に運慶派の仏師の作とみられている。



被災者受け入れ開始 (三月)

上越市は東日本地震の被災者たちの受け入れを始めた。二百人規模の受け入れが可能な総合体育館で疲労を休めてもらう。柔道用の畳を敷き間仕切りで六室を造った。上越市は千人程度の受け入れを表明している。最初の百九十九人が南相馬市から到着した。



無人機で原発撮影 (三月)

地震と津波による大被害を受けた福島第一原発では原子炉の安定化に懸命な復旧作業が連日行われている。そうした中、状況把握、情報収集に妙高市の会社が製造している無人の自動自律航空機(UAV)が協力している。またUAVは噴火活動を続けている九州霧島・新燃岳河口付近の撮影も行っている。

高田城百万人観桜会 (四月)

東日本大震災と長野県北部の地震の発生に伴い規模を縮小して実施された。累計入場者は約八十万入。





吹き続ける風巻神代桜 三和区岡田
(四月)

この桜は樹齢五百年とも八百年ともいわれる古木で、幹回り約5.3メートル、高さ三十メートルを超える上越市指定文
化財。



増村朴斎 七十回忌 (五月)

有恒学舎(現県立有恒高校)を創設した増村朴斎の七十回忌が菩提寺で、多くの同窓生参加のもと開かれた。



今に残るスイッチバック開業100周年
(五月)

JR二本木駅は信越線で現存する唯一のスイッチバック方式の折り返し駅である。開業百周年を迎えた。二本木駅は明治四十四年(1911)開業。長野方面に向かつて急勾配に位置することから、この方式が採用された。急勾配の本線から平坦な場所の停車場へと分岐させるのだ。日本曹達工場の最寄り駅、貨物駅として百年の歴史を刻んだ。



宇宙飛行士 山崎直子さん来越(五月)

JAXAの宇宙飛行士山崎直子さんが、上越市制施行四十周年記念講演をした。「人間が生き延びることそのものが奇跡と感じた」と述べ地球の素晴らしさや宇宙生活の面白さ、任務の内容を紹介した。



霜風 引退 (五月)

八百長問題で、四月に引退届を出した元小結霜風島関が地元後援会に出席、これまでの感謝と新たな決意を述べた。福岡市内の養鶏所で働き第二の人生をスタートさせる。



高田城ロードレース (六月)

新緑の候、千七百人が高田城下をかける「高田城ロードレース」に参加、高田公園陸上競技場を出発した。



謙信公祭にGACKTさん出演決定
(六月)

八月の春日山城址周辺を舞台に行われる謙信公祭の謙信役にGACKTさんの出演が決まった。出陣行列と川中島合戦の再現に出演予定。



旧長崎屋ビル跡地に新ビル (六月)

本町五丁目旧長崎屋ビル跡地に建設予定の新複合ビルの施工式が行われた。高田中心市街地の賑わい再生が期待される。完成は平成二十五年。



有機農業で荒地復元 「じよえつ東京農大」 (六月)

全国農業会議所と全国農業新聞社主催の「耕作放棄地発生防止・解消活動」で表彰された。荒れ果てた土地を再生、再開する有機農業経営が認められた。



夏の主役 イルカが到着 (六月)

市立水族館に、イルカショーに出演する二頭のバンドウイルカが静岡県三津から到着した。



南葉高原キャンプ場 開設三十周年 (六月)

青田南葉山(標高九百四十九m)の中腹に整備された「南葉高原キャンプ場」は市街地から車で二十分のロケーションにあります。ロッジを中心に山荘、バンガロー、キャンプサイトなどが整備され、昨年までの利用者は五十五万三千人。



柿崎出身のお相撲さん (六月)

先場所六勝一敗の好成績を上げた柿崎出身の「越の浪」(十九歳 立浪部屋)は序二段東三枚目に昇進。活躍が期待される郷土のお相撲さんです。



知命堂病院 設立百四十周年記念式典 (六月)

明治四年旧高田藩医師瀬尾玄弘さんが知命堂として開院したのが始まり。



アカシヨウビンが吉川区に (六月)

吉川区国田に住み着いた様子のつがいカメラに取まった。東南アジアで越冬、夏に日本に渡ってくる。日本本土で営巣するが渡来数が少ない珍鳥である。



「文化講演会」のお知らせ

期日 平成二十四年二月二十二日(日)
時間 午後四時開演(受付三時半より)
会場 「アルカディア市ヶ谷」(私学会館)
入場無料

恒例の文化講演会が開催されます。

今回の講師は高さ六百三十四メートルのスカイツリー建設の監理を担当された(株)日研設計の監理部門監理部長技術長の山崎淳(まこと)さんです。

山崎さんは上越市の出身です。

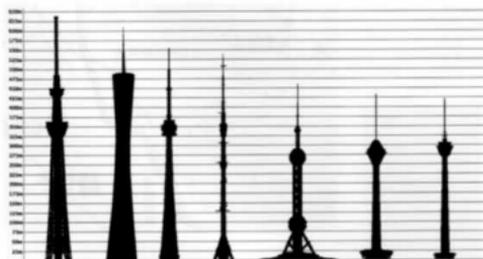
スカイツリー建設にまつわる色々な面白い話がお聞きできるものと思います。各方面へPRして大勢の方に参加して頂きたいと思っています。

引き続き行われる懇親会にも御参加ください。会費は五千円です。

上越のお酒、上越の旨い物がたくさん用意されています。好評の謙信汁や牧区の一斗(ぶろく)もいつもより多めに用意します。

また、色々な商品が当たる抽選会等が企画されています。

皆様の御来場をお待ちしております。Jネットの会員以外の方も大歓迎ですので皆様お誘い合わせのうえ、御来場ください。



世界のタワー

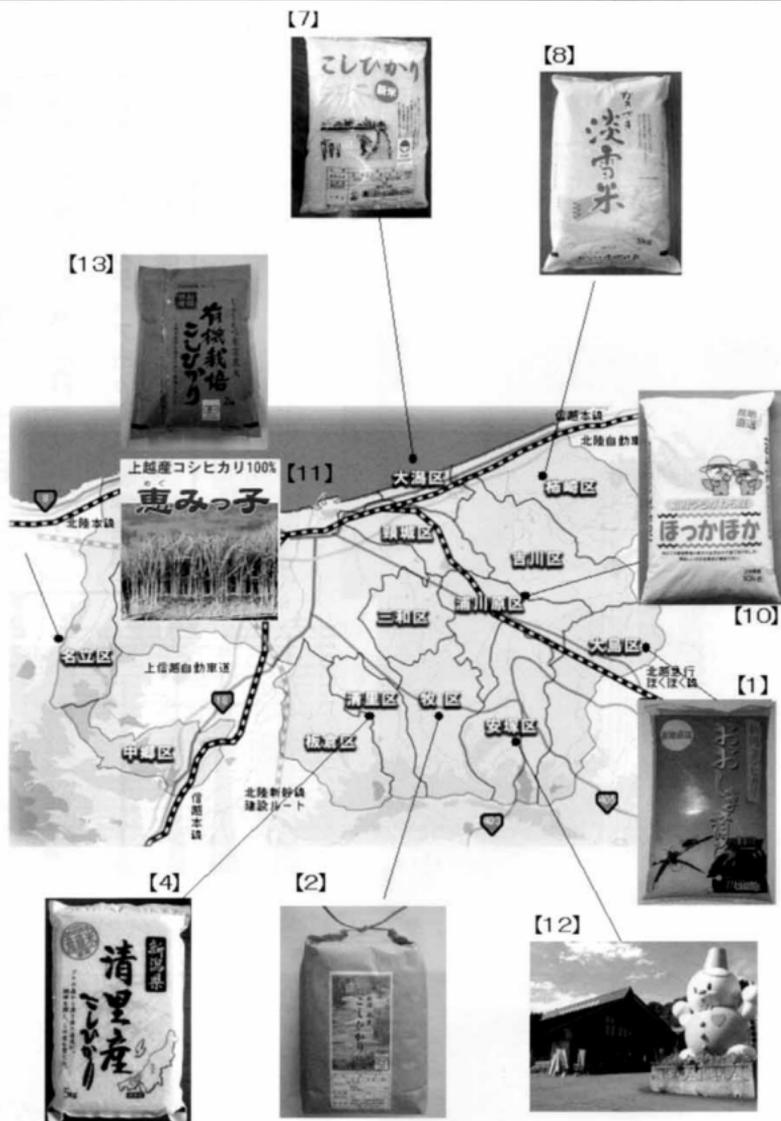


山崎 淳さん(上越タイムズより)



ふるさと市場

※会員の方の送料は無料です
Jネットが負担します



■お問い合わせ

ふるさと上越ネットワーク
東京事務所
電話 03-6415-6277

■注文方法

「お米」「上越商業サービス公社さん扱い」の商品とも、注文先は、【Jネット事務局】です。ご請求は、商品発送後、【品代のみ】各販売業者さんからご注文の会員の方へ送ります。送料はJネットで負担しますのでご注文の皆さんにはかかりません。

上越米

米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地など、上越市をとり囲む山々からの雪解け水で育まれた上越のお米。上越地域では、米を栽培するにあたって、農薬や化学肥料を減らす取組に、地域一丸となって取り組んでいます。上越のお米は、ふるさとかからお送りする安全・安心なお米です。



【1】(財)大島農業振興公社(大島区)

代表者 中條勝夫

住所 上越市大島区牛ヶ鼻 2649 (〒942-1215)

電話 025-594-2856 F A X 025-594-2860



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	おおしま育ち 白米	5 kg	2,800円
②	おおしま育ち 白米	10 kg	5,600円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 3割減農薬・3割減化学肥料・除草剤使用1回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 食味良好
冷めてもおいしく、お弁当に最適
- 5 その他 栽培の履歴有り

【2】(財)牧農林業振興公社(牧区)

理事長 中川耕平

住所 上越市牧区柳島 482-1 (〒943-0647)

電話 025-533-6763 F A X 025-533-6805



商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	農薬・化学肥料を3割減らして栽培された米 牧産コシヒカリ 100%	5 kg	2,800円
②	玄米の栄養分が残っている米 (ビタミンB1・E、ミネラル等) 牧産コシヒカリ 100% 7分づき	5 kg	2,800円
③ ※	こしが強く、餅にするとよーく伸びるもち米 牧産こがねもち 100%	5 kg	2,800円

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 品種 コシヒカリ(100%) 2 栽培方法 3割減農薬・3割減化学肥料・除草剤1回使用 3 品質 一等級 4 食味 香りが良く、食味良好 5 その他 栽培の履歴有り | <ol style="list-style-type: none"> ※ 1 品種 こがねもち(100%) 2 栽培方法 慣行栽培 除草剤1回使用 3 品質 一等級 4 食味 こしが強く、食味良好 5 その他 栽培履歴あり |
|--|--|

【4】(有)グリーンファーム清里(清里区)

代表取締役 保坂一八

住所 上越市清里区上田島122(〒943-0504)

電話 025-528-4270 F A X 025-520-7339

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	清里産コシヒカリ	5kg	2,400円
②	新潟県認証 特別栽培米 清里産コシヒカリ	5kg	2,800円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 慣行米・5割減農薬・減肥料米
- 3 品質 一等級
- 4 食味 最良
- 5 その他 J G A P (生産管理工程) 認証取得により栽培の履歴有り



【7】(有)朝日池総合農場(大潟区)

代表取締役 平沢栄一

住所 上越市大潟区内雁子252-1(〒949-3135)

電話 025-534-5955 F A X 025-534-5956

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	NPO法人 赤トンボ認証 J A S ・有機栽培米コシヒカリ100%	5kg	3,500円
②	新潟県認証栽培米コシヒカリ100%	5kg	2,900円

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 品種 コシヒカリ(100%) 2 栽培方法 有機米・除草剤未使用 3 品質 一等級 NPO法人 赤トンボ認証 J A S 認証 4 食味 良食味 | <ol style="list-style-type: none"> 1 品種 コシヒカリ(100%) 2 栽培方法 減化学肥料・減農薬・除草剤使用1回 3 品質 一等級 新潟県認証 4 食味 良食味 |
|---|--|



【8】柿崎雪むろ利用組合(柿崎区)

代表者 榎井辰雄

住所 上越市柿崎区馬正面1012-乙(〒949-3214)

電話 025-536-4453 F A X 025-536-6116

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①	新潟県認証 コシヒカリ	5kg	3,200円
②	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵米)	5kg	3,450円
③	新潟県認証 コシヒカリ(雪中貯蔵・無洗米)	5kg	3,500円
④ ※	慣行栽培 コシヒカリ	5kg	2,500円
⑤ ※	慣行栽培 コシヒカリ(無洗米)	5kg	2,550円

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 品種 コシヒカリ(100%) 2 栽培方法 減化学肥料・減農薬 3 品質 一等級 新潟県認証 4 食味 良 5 その他 栽培の履歴有り | <ol style="list-style-type: none"> ※ 1 品種 コシヒカリ(100%) 2 栽培方法 慣行米 3 品質 一等級 4 食味 良 5 その他 栽培の履歴有り(商品により一部異なります) |
|---|---|
- 雪中貯蔵・無洗米(商品により一部異なります)



【10】（財）浦川原農業振興公社（浦川原区）

理事長 西山 知太郎

住所 上越市浦川原区顕聖寺382-1（〒942-0314）

電話 025-599-3882 F A X 025-599-2870



商品番号	商品名	内容量	価格（税込）
①	浦川原産コシヒカリ	5 kg	2,500円
②	浦川原産コシヒカリ	10 kg	5,000円

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 品種 コシヒカリ（100%） | 4 食味 良食味 |
| 2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回 | 5 その他 栽培の履歴有り |
| 3 品質 一等級 | |

【11】正善寺工房（NPO法人食の工房ネットワーク）（合併前の上越市）

代表者 小林 元

住所 上越市下正善寺1027-2（〒943-0813）

電話 025-523-0621 F A X 025-523-0621



商品番号	商品名（品種・認証等）	栽培方法	内容量	価格（税込）
①	センター認証 JAS・有機栽培米 合鴨コシヒカリ100%	無化学肥料 除草剤未使用	5 kg	5,775円
②	センター認証 JAS・有機栽培米 コシヒカリ100%	無化学肥料 除草剤未使用	5 kg	4,620円
③	センター認証 特別栽培米 コシヒカリ100%	無化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,675円
④	新潟県認証 特別栽培米 コシヒカリ100%	減化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,255円
⑤	慣行栽培米 コシヒカリ100%	慣行米 除草剤使用1回	5 kg	3,045円
⑥	無洗米慣行栽培米 コシヒカリ100%	慣行米 除草剤使用1回	5 kg	3,150円
⑦	センター認証 JAS・有機栽培米 紫黒米（もち米）	有機米・無化学肥料 除草剤未使用	1 kg	1,750円
⑧	センター認証 特別栽培米 こがねもち（もち米）	無化学肥料 除草剤使用1回	2 kg	1,575円
⑨	センター認証 特別栽培米 こがねもち（もち米）	無化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,935円
⑩	センター認証 特別栽培米 低タンパク米（春陽）	減化学肥料 除草剤使用2回	5 kg	4,050円

- | | |
|-------------------|--|
| 1 品質 一等級 | |
| 2 食味 良食味・5つ星★★★★★ | |
| 3 その他 栽培の履歴有り | |

（株）アフアス認証センター認証は、センター認証と略してあります。

【12】手づくり百人協同組合（安塚区）

代表者 増野 いづ子

住所 上越市安塚区樽田 140 雪だるま物産館（〒942-0531）

電話 025-595-1010 F A X 025-595-1026



商品番号	商品名（品種・認証等）	内容量	価格（税込）
①	棚田百選米（雪中貯蔵）	2kg	1,200円
②	棚田百選米（雪中貯蔵）	3kg	1,800円
③	棚田百選米（雪中貯蔵）	5kg	3,000円
④	棚田百選米（雪中貯蔵）	10kg	6,000円
⑤ ※	棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	5kg	3,500円
⑥ ※	棚田のはさかけ米（雪中貯蔵）	10kg	7,000円

1 品種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味良好

◆ 2kg、3kgはナイロン袋、5kg、10kgは紙袋入りです

※ 1 品種 コシヒカリ（100%）

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 香り好し、冷めても美味し

※ 袋は市販の紙袋になります。

【13】株式会社 新潟県 上越市 大谷 農大

ホームページ <http://www.jnodai.co.jp>

代表取締役 藤本彰三

《上越農場》 住所：〒949-1705 新潟県上越市大字吉浦字梨子平1821-1

電話：025-531-5450 FAX：025-531-5455

《本店》 住所：〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 東京農業大学内

電話（FAX）：03-5477-2721

商品番号	商品名（品種・認証等）	内容量	価格（税込）	
①	JAS認証 有機栽培こしひかり 遠赤乾燥	900g(6合)	700円	
②		精米 3kg	2,040円	
③		5kg	3,400円	
④		玄米 900g(6合)	700円	
⑤			3kg	2,040円
⑥			5kg	3,400円
⑦	JAS認証 有機栽培こしひかり 天日乾燥	精米 3kg	3,000円	
⑧			5kg	5,000円
⑨		玄米 3kg	3,000円	
⑩			5kg	5,000円

当社の主力商品です。紙マルチによって初期雑草を抑制し、学生がヒエ抜きしました。適度な粘りどつや、上品な甘さを持ったおいしいお米です。毎日の食事に最適。世田谷区が推薦する「世田谷みやげ」に2009年度から連続で選ばれております。900g(6合)は、お土産やおためし用に人気があります。

①～⑥：

有機JAS認証米を日本海の風を利用して伝統的なハサで天日乾燥しました。当社の特上米で限定品です。天日乾燥の風味と口の中いっぱい奥深い甘さが広がる逸品。ご贈答品に最適なお米です。新米発売時にすぐ完売してしまう商品なので、是非お見逃しなく。

⑦～⑩：

かみえちご

上越後ふるさと市場

上越商業サービス公社取り扱い商品

魚住かまぼこ店

上越市春日新田5丁目19番18号

TEL 025-543-2438

FAX 025-544-5092



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
021	昆布巻蒲鉾	250g	670円	原料スリミのたら・いとよりも最高ランクSA級。 昆布は道産真昆布の1等級を使用。
	かまぼこの生身を幅広のだし昆布で巻いた蒸し蒲鉾、真空包装			
022	板なし明太子入り蒲鉾	250g	560円	蒲鉾の旨みと明太子の味がマッチ。チヨッピリ辛めで、ビールのにんにく最適。
	かまぼこの生身に辛子明太子を混ぜて練り、蒲鉾型に成型した蒸し蒲鉾、真空包装			
023	板なしかきこ入り蒲鉾	250g	650円	かきの旨味、かまぼこの歯ざわりのよさ。美味。評価高い。
	かまぼこの生身にズワイガニのほぐし身を混ぜた蒸し蒲鉾、真空包装			

平八

上越市木田3丁目8番48号

TEL 025-524-3330

FAX 025-524-3352

Mail: heihachi@heihachi-kamaboko.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
012	塩するめ	L5枚	2,580円	厳選したイカを天日塩を使い、丁寧に作りました。 そのまま焼いたり、天ぷらにして楽しんでください。
013	塩するめ	L2枚	800円	
031	きくらげ小板	220g	546円	独自に味付したきくらげと蒲鉾の食感が良く合います。
032	鮭小板	220g	945円	天然銀鮭を下ごしらえし五目蒲鉾の上のせた板付蒲鉾
033	穴子巻	250g	1,155円	活穴子をたれ焼きにして五目風蒲鉾の身にのせず巻きにした手巻蒲鉾

岩の原葡萄園

上越市北方 1223 番地
 TEL 025-528-4002
 FAX 025-528-3530
<http://www.iwanohara.sgn.ne.jp>
 Mail : mail@iwanohara.sgn.ne.jp



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
041	深雪花セット	720ml 各1本	4,551円	フレンチオーク樽でじっくり熟成させたまろやかな赤ワインと、自然清澄と低温発酵で爽やかに仕上げた白ワイン。
	深雪花 (赤)、深雪花 (白)、化粧箱入り			
042	スペリユールセット	720ml 各1本	3,479円	豊かな果実味と深みのある味わいの赤ワインと、はちみつを想わせる香りと豊かな酸が織り成すキレイのある口当たりの白ワイン。
	スペリユール (赤)、スペリユール (白)、化粧箱入り			
043	プリティセット	720ml 各1本	2,515円	もぎたて葡萄そのままの香りとみずみずしい口当たりが特徴のフレッシュ&フルーティなワイン。
	プリティルージュ (赤)、プリティブラン (白)、化粧箱入り			
044	プリティルージュ (赤)	720ml	1,100円	
045	プリティブラン (白)	720ml	1,100円	

田中酒造

上越市大字長浜 129 番地 1
 TEL 025-546-2311
 FAX 025-546-2433
<http://www.16.ocn.ne.jp/~noutaka/home.html>
 Mail : noutaka-tanakashuzou@eos.ocn.ne.jp



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
051	大吟醸 能鷹	720ml	2,624円	主席第一位の実績に輝く淡麗うま口の酒 原料米：山田錦 精白40%、日本酒度+4、アルコール度数16.5、酸度1.2
052	吟醸・特別本醸造 2本入セット	各720ml	2,963円	〔吟醸〕 吟醸酒の香りを楽しむ爽やかな酔い心地の酒 〔特別本醸造〕 最高の技術で丁寧に仕上げた淡麗うま口の酒 〔吟醸〕 原料米：山田錦・五百万石 精白50%、日本酒度+5、アルコール度数16.4、酸度1.3 〔特別本醸造〕 原料米：五百万石、雪の精 精白55%、日本酒度+6、アルコール度数16.5、酸度1.4
053	特別純米・上撰黒松 2本入セット	各720ml	2,476円	〔特別純米〕 越後杜氏の本格仕込みによる芳醇な風味とすっきりした口当たりの良い酒 〔上撰黒松〕 魅力溢れる本醸造りでひとクラス上を感じさせてくれる、すっきりした辛口の酒 〔特別純米〕 原料米：五百万石、雪の精 精白55%、日本酒度+6、アルコール度数17.3、酸度1.7 〔上撰黒松〕 原料米：五百万石、新潟早生 精白60%、日本酒度+8、アルコール度数15.6、酸度1.3

武蔵野酒造

上越市西城町4丁目7番46号
 TEL 025-523-2169
 FAX 025-524-3041
 http://www.musashino-shuzo.com
 Mail : hajime_k@musashino-shuzo.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
061	スキー正宗 特別本醸造	720ml	1,050円	越後高田、日本スキー発祥地にちなみ命名。やや甘口に感じる旨味のある特別本醸造酒です。全てのお料理に合う食中酒として、冷から熱燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
062	春日山 天と地 辛口 本醸造	720ml	1,050円	上越謙信公の居城があった春日山にちなみ命名。やや辛口で飲みやすいスッキリとした味わいが特徴の純米酒。冷からぬる燗まで美味しくお召し上がり頂けます。
063	華 (はな) 大吟醸	1,000ml	4,100円	原料米に五百万石を使用し、長期低温発酵により醸し出された大吟醸酒です。大吟醸特有のフルーティな香りをお楽しみ下さい。冷や又は常温で美味しくお召し上がり頂けます。

JAえちご上越 米酒センター

上越市春日新田5丁目3番11号
 TEL 025-543-0055
 FAX 025-543-5261



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
071	雁木通り	2kg	1,200円	上越産コシヒカリ米 100%
072	雁木通り	5kg	2,880円	
073	雁木通り	10kg	5,760円	

◎ 相場により変動あり。

えちご上越農業協同組合

上越市藤巻5番30号
 TEL 025-543-0055
 FAX 025-543-0068
 http://www.ja-ej.com
 Mail : Jkakouka@ja-ej.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
091	きんしゃり	5kg	2,800円	えちご上越管内で育ったおいしいお米です。一粒一粒に安心安全を込めてお届けします。
	コシヒカリ米100%	※相場により変動あり。		
092	こがね姫(切り餅)	40枚	2,500円	えちご上越管内で育った水稲モチ米こがねもち100%使用。衛生的なクリーンルームで添加物を使用せずに製造しています。使い易い個包装タイプです。
	水稲モチ米「こがねもち100%」使用			
093	越後みそ 味噌路	1kg×4	2,200円	えちご上越管内で育った大豆を原料に熟成させた、こくのある味噌です。
	赤みそ			

かんずり

妙高市西条438番地1
 TEL 0255-72-3813
 FAX 0255-72-0344
<http://www.haneuma.net/kanzuri/>
 Mail : kanzuri@haneuma.net



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
101	かんずりセット #20	各1個	2,100円	かんずりの定番商品セットです。三年間ゆっくり熟成・醗酵させて造る、日本で唯一の醗酵香辛料です。
	かんずり(大)80g、かんずり漬山菜80g、かんずり漬えのき茸80g			
102	かんずり(大)	80g/1個	630円	
103	かんずり漬えのき茸	80g/1個	630円	

山本味噌酒造場

上越市中央1丁目13番4号
 TEL 025-543-2283
 FAX 025-543-1373



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
111	コシヒカリみそ	1kg	1,103円	特別栽培新潟コシヒカリ米と特別栽培北海道大豆及び天日塩を原料とし塩分11%にひかえた長期熟成天然醸造手造り味噌です。
112	越の淡雪	1kg	772円	国産大豆と国産丸米を主原料に新潟県の特許技術による製造法で塩分を8.5%にひかえ、天然発酵でじっくりと熟成させた手造り味噌です。

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
113	みそ漬け (6品入)	320g	735円	手造りみそに長時間漬け込んだ越後風味のみそやのみそ漬けです。
	大根、茄子、胡瓜、生姜、昆布、山芋等			

石田弥菓子店

上越市中央1丁目5番1号
TEL 025-543-2502
FAX 025-543-2502



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
121	謙信の城	10ヶ入	1,260円	皮は乳菓で中餡は赤と白のミックスで生クリームを入れて造っています。
122	謙信銘菓 十三夜	10ヶ入	1,260円	ホイ乳焼きで、中の餡は黄餡で大納言を入れて造っています。
123	笹だんご	10ヶ入	1,365円	越後平野に取れるお米と餅草を主原料こした当店独自の製法によるものです。

佃戸裏庵

上越市中通町6番17号
TEL 025-525-8771
FAX 025-524-5449
<http://www.itorian.com>



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
131	寒椿	個包装90g	368円	新潟産水稲モチ米を使用した昔ながらのしょう油味のおかき。
132	寒椿マヨネーズ	個包装82g	368円	新潟産水稲モチ米を使用したマヨネーズ味のおかき。
133	日輪ごま	9枚	368円	新潟産のコシヒカリを使用したゴマせんべい。

大杉屋惣兵衛

上越市本町5丁目3番31号
 TEL 025-525-2500
 FAX 025-525-2159
<http://www.homepage3.nifty.com/ohsugiya/>
 Mail : ohsugiya_sohbei@nifty.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
141	翁 飴	20ヶ入	1,365円	江戸時代からの越後銘菓。もち米、飴を角にかためたもの。
142	おぐらようかん 春日山	460g	1,365円	大納言の風味を生かした羊羹。(題字は上杉謙信公)
143	くろようかん 第一義	480g	1,365円	丹精こめて練り上げた黒砂糖羊羹。(題字は上杉謙信公)

菓子処 くさのや

上越市中央1丁目4番1号
 TEL 025-543-5351
 FAX 025-544-6302
<http://www.kusanoya.com>
 Mail : mail@kusanoya.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
161	笹だんご	10ヶかご入	1,390円	越後の上質米を原料に風味豊かなよもぎを加えた餅でつぶあんを包み、熊笹でくるんだものです。 (※地域によりクール便)
162	笹だんご	1ヶ	136円	
	数量に応じ、サービス袋・箱にお入れいたします。			
163	ちまき	5ヶ入	630円	香り豊かな笹の葉でおいしい越後のもち米をくるみ、ゆで上げたものです。 (※地域によりクール便)

小竹製菓

上越市南高田町3番1号
 TEL 025-524-7805
 FAX 025-524-1735



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
171	小竹のサンドパン	5ヶ	630円	特製ホワイトクリームを付けた昔なつかしいコッペンパンです。

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
172	小竹のサンドパン	10ヶ	1,260円	特製ホワイトクリームを付けた昔ながらの美味しいコッペンパンです。
173	小竹のサンドパン	15ヶ	1,890円	

十四代 高橋孫左衛門商店

上越市南本町3丁目7番2号
 TEL 025-524-1188
 FAX 025-525-3138
<http://www.etigo-ameya.co.jp>
 Mail: info@etigo-ameya.co.jp



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
181	翁 飴	12ヶ	798円	江戸時代より続く、高田の銘菓です。
182	栗 飴	2ヶ	1,733円	日本で初めて創製された、もち米の水飴です。
183	詰合せ(翁飴12ヶ、栗飴1ヶ、るり飴6ヶ)		2,310円	贈り物に最適な詰合せです。
184	笹 飴	20枚入	525円	



関のや製菓

上越市上曽根399番地の1
 TEL 025-528-4017
 FAX 025-528-4085

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
191	久比岐野銘菓 八社五社(やしゃごしゃ)		1,365円	上越一円で広く歌われ踊り継がれる民謡「八社五社」。昭和49年に上越市無形文化財第一号に指定され、記念として造られたお菓子です。じっくりと練りこんだ小豆餡とクリーム餡の二種類があり、うす皮でしっとり焼き上げました。
	※夏期のみクール便 小豆5ヶ、クリームあん(白)5ヶ			
192	岩の原ワインゼリー		2,037円	日本の葡萄とワインの父、川上善兵衛の情熱により生まれた100余年の歴史を持つ伝統の味、岩の原ワインをたっぷり使用したワインゼリーです。味と香りで100余年のロマンを感じてください。
	赤ワインゼリー6ヶ、白ワインゼリー3ヶ			
193	岩の原オリジナルケーキ	1本	1,365円	岩の原ホワイトブランデーを使用した当店オリジナルケーキです。四種類の味が有り、それぞれの味を十分に楽しんでいただけるケーキです。
	アーモンド、紅茶、チーズ、チョコレートの4種類でお好みのものをご指定ください。			

紅屋

上越市仲町4丁目5番4号
TEL 025-523-3098
FAX 025-523-3175



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
211	塩羊羹	1本	525円	昔ながらの製法で作られた義の塩を使用した、さっぱりとした塩味の風味を大切に塩羊羹を仕上げました。
212	笹だんご(化粧箱入)	10ヶ入	1,413円	越後高田を代表する故郷の味。笹の葉に包まれたよもぎだんごの野趣豊かな風味は、何時も新鮮な郷愁をたたえています。
213	笹だんご(化粧箱入)	20ヶ入	2,825円	※1ヶ(45g) 136円

マーブル市原

上越市大学前204
TEL 025-523-3175
FAX 025-526-1395



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
221	雪中梅入り酒ケーキ	1本	1,200円	〔雪中梅入り酒ケーキ〕 地元の雪中梅を使用した、しっとりとした酒ケーキです。
222	雪中梅入り酒ケーキと 春日山謙信流陣太鼓		2,300円	〔春日山謙信流陣太鼓〕 高田公園をイメージし桜の花と蓮の実をお菓子にのせ焼き上げました。中には白アンと小倉アンがそれぞれ入っています。
	雪中梅入り梅ケーキ1本、春日山謙信流陣太鼓6ヶ入			
223	笹だんご	20ヶ入	2,750円	手作りの笹だんご。できたてをお届けします。

三野屋菓子店

上越市中央1丁目1番11号
TEL 025-543-2538
FAX 025-543-2391
Mail: supersonic@bg.wakwak.com



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
231	継続だんご	8本入	1,260円	林美美子の名作「放浪記」にも登場する当地の名物です。白餡を丸めて串にさし、一本一本でじっくり焼き色をつける様に焼きあげる。100年間変わらぬ手作りにて、味と歴史を伝え続けています。

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
232	笹だんご	20ヶ入	2,940円	新潟県を代表するお土産の一つです。餡が美味しい事が自慢の当店の笹だんご。ぜひともご賞味下さい。
233	桜サブレ	10枚入	1,050円	日本三大夜桜を誇る上越市の木は「桜」です。桜の花の塩漬けを一輪映かせて、焼き上げてあります。

杉田味噌醸造場

上越市本町4丁目3番16号
TEL 025-525-2512
FAX 025-523-6350



注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
251	雪の花みそ 中辛	4kg 朱樽	3,675円	
252	雪の花みそ 中辛 [贈答用、化粧箱入]	1kg×5	3,413円	
256	雪の花みそ 中辛 [自家用、簡易包装]	1kg	724円	
257	雪の花みそ 甘口 [自家用、簡易包装]	1kg	778円	
253	越後みそ漬け 昔づくり辛口	1kg	2,100円	
254	越後高田 甘口みそ漬け	1kg	2,468円	
255	みそ・みそ漬セット		3,896円	
	中辛 3kg、甘口みそ漬 700g			

有わかなみ

新潟県上越市板倉区高野 1,351
TEL 0255-81-4170

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
261	姫あられ		368円	

有町田醤油味噌醸造場

新潟県上越市東本町3丁目2番24号
TEL 025-523-4367

注文番号	商品名	数量	金額(税込)	商品解説
271	濃い口あぜみち醤油	1本	630円	
272	越後味噌はさぎ [つぶ味噌]	1本	760円	
273	越後味噌ふるさと [つぶ味噌]	1本	530円	
274	越後味噌ふるさと [こし味噌]	1本	530円	

地元に着したタウン誌

月刊 JACK LAND

上越エリア情報誌 ジャックランド

350円

毎月25日発売

毎月購読承ります

株式会社 ジャック

〒943-0165 新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail hensyuubu@jack-land.com

ジャックランド

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員です。

J

- ★特別賛助会員とJネットはお互いに協力しながら良いまちづくりをめざします。
- ★Jネットでは会の運営に協力していただける特別賛助会員を募集しております。
- ★皆様のご存知の企業・団体等で賛助会員をお願いできるようなところがありましたら是非ご紹介ください。

NPO法人 食の工房ネットワーク

NPO法人・食の工房ネットワークは、私たちが目指す「食べる側」と「作る側」を本来の姿につなぐ活動を中心に、お互いの立場から結びつきを大切に、畑から食卓までの流れの中で、安全性や品質に“透明性”を求めることを共通の目的として設立いたしました。消費者と生産者がお互いに通じながら、安全な地域の生産品を、安心して食べることが出来るように「食に関するプラットフォームづくり」を進めています。



上越市の田舎と妙高山系

こんな活動をしています

- 農産物・加工品に関する情報収集及び情報発信
- 農産加工品に関する調査及び研究
- 地場農産物・加工品の消費拡大事業
- 自然を通じて子供たちに五感を感じさせる活動

これらのコンサルティング・教育・講習を
中心に事業展開しています。

〒943-0831 新潟県上越市下正善寺1027-2 正善寺工房内
TEL・FAX 025-523-0621



(有)上越商業サービス公社

上越観光物産センター内
上越市藤野新田175-1 〒943-0171
TEL 025-545-0123 FAX 025-545-1113
営業時間 9時～18時
休館日 月曜日、祝日の翌日

上越の名産・特産品を一堂に取り揃えています。
お土産選びにぜひご利用ください。

取扱商品例
塩するめ、かまぼこ、ワイン、日本酒、米、そば、
ちまき、おかき、笹だんご、各種銘菓

通信販売も行っています。Jネット会員の皆様が利用される場合は、送料は不要です（送料は、Jネットが負担します）。ご購入等にもご利用ください。

おかげ様で 120 年



創業一八九〇年（明治23年）
伝統のおいしさ
岩の原ワイン

みゆきばな
深雪花

希望小売価格
720ml各2,118円
360ml各1,164円

秋園は20歳をすぎてから

(株)岩の原葡萄園

新潟県上越市北方1228番地 Tel.025-528-4002
(HP)<http://www.iwanohara.san.ne.jp/>

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員です。



- ★特別賛助会員とJネットはお互いに協力しながら良いまちづくりをめざします。
- ★Jネットでは会の運営に協力していただける特別賛助会員を募集しております。
- ★皆様のご存知の企業・団体等で賛助会員をお願いできるようなところがありましたら是非ご紹介ください。

日刊

**上越タイムス
系西タイムス**

上越タイムス 検索

各種お問い合わせは

0120-17-4243

購読料は1ヶ月 2,875円(税別送料込)

※お支払いは郵便振替となります

紙面に掲載した写真提供致します。

※詳しくはお問い合わせ下さい。

株式会社 上越タイムス社

〒943-0823 新潟県上越市高土町2-4-6
TEL 025-525-6666 FAX 025-525-0061
URL www.j-times.jp



携帯メールニュース

ぽけっとタイムス

好評配信中! jtimes@hain.jp



スマートフォンを
持つだけで

山里のすべてが湯ったり村です。

寂 静	瀬 音	風 鳴	花 薫	紫 昏	月 明
星 雨	狭 霧	伝 説	豊 饒	叢 雲	蒼 穹



十人十色の癒しの湯
おんじゅみ温泉 上越市皆口1601
TEL 541-2611 FAX 541-2616

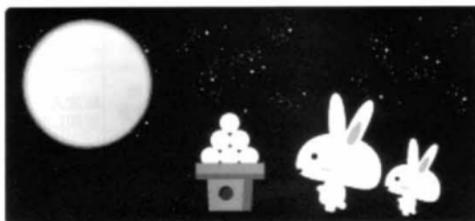
ふるさとへの便り 毎日お届けします

上越市の主な催し

「上越市のイベントカレンダー」より、夏の主な催しをとりあげてみました。是非参加されませんか。なお、都合により変更になる場合もありますので、「問合せ先」または、市の共生まちづくり課（電話：025-526-5111）に確認してください。

平成 23 年度

9 月



親鸞の妻 恵信「十通の手紙」特別展	9月3日(土)～12月4日(日)	板倉区・糸しんの里記念館	恵信尼の書状十通などの恵信尼に関する資料を紹介し、写真、パネル等恵信尼に関連する作品を合わせて展示します。	糸しんの里記念館 TEL.0255-81-4541
秋の観光地引綱	9月4日(日)～10月30日(日)(毎週日曜日と祝日)	大潟区・鶴の浜海水浴場	朝7時から鶴の浜海水浴場にて参加者全員で綱を引き、採れた魚は、じゃんけん大会でプレゼント。地引綱の後には、温かい海賊汁が振舞われます。	大潟観光協会 TEL.025-534-4465
ふれあいフェスタ	9月10日(土)	福祉交流プラザ	2回目を迎えるふれあいフェスタは、『ひとりがみんなのために、みんながひとりのために』を掲げ、地域の方々により身近な施設となるよう館内事業所を挙げてイベントを開催します。	福祉交流プラザ TEL.025-527-2525
棚田の稲文字祭り(秋)	9月10日(土)(予定)	清里区・棚田地内の田んぼ(県道脇)	春に植えた稲文字の稲刈り、はさ掛けを行います。田んぼでは、おにぎりコンテストなどのイベントも行われます。	清里区総合事務所 産業建設グループ TEL.025-528-3111
福刈交流体験(稲刈りツアー)	9月17日(土)・18日(日)	清里区・北野地内	田舎ののどかな風景の中で、稲刈り、はさ掛け、芋掘り、そば打ちなどの体験や地元集落との交流会を行い、都市と農村の交流を深めます。	池地農業振興会 TEL.025-528-7131
企画展「原三溪と小林古径～三溪園所蔵品展」	9月17日(土)～10月30日(日)	小林古径記念美術館	横浜の豪商・原三溪は、美術品の収集家であるとともに日本画家たちを支援し、近代日本の芸術文化の発展に寄与しました。三溪園が現在所蔵する美術品を展示するとともに、古径を育てた原三溪とのつながりを紹介します。 (上越市市制施行40周年記念事業)	小林古径記念美術館 TEL.025-523-8680
コレクション展「古径の大正時代」	9月17日(土)～12月18日(日)	小林古径記念美術館・小林古径邸	明治末頃からの三溪園における研究会によって小林古径はその後の躍進を遂げました。今回の企画展に関連して、当館所蔵品から古径の大正時代の画業を紹介いたします。	小林古径記念美術館 TEL.025-523-8680
路線利用促進イベント	9月18日(日)	イトーヨーカドー直江津店	9月20日は、日本で初めてバスが運行された「バスの日」。この日にちなんで、バス利用促進イベントを実施します。働く車の展示やお絵かきバス、バス運転席での記念撮影などが楽しめます。	上越市地域公共交通活性化協議会(市新幹線・交通政策課内) TEL.025-526-5111

名立大鍋祭り	9月18日(日)・ 19日(月)(祝)	名立区・うみて らす名立	新鮮な山海の素材をふんだんに使い、500人分が一度に作れる大鍋で作ったカニ汁、つみれ汁、エビのすり身汁等を販売するほか、特産品まつり、テント市なども開催します。	名立観光協会 Tel.025-537-2203 うみてらす名立 Tel.025-531-6300
企画展「原三溪と 小林古径」記念講 演会	9月23日 (金)(祝)	小林古径邸画 室	企画展「原三溪と小林古径」の開催を記念した講演会を開催します。 演題:「原三溪と三溪園について」 講師:川幡留司氏(財団法人三溪園保勝会 参事)	小林古径記念美術 館 Tel.025-523-8680
大池まつり	9月23日 (金)(祝)	頸城区・大池 いごいの森第 3キャンプ場	昔、大池で行われていた行事を再現したお祭りです。魚のつかみどりや、青空市場などが行われます。	大池まつり実行委 員会事務局 Tel.025-530-4539
町家見学会	9月25日(日)	旧今井染物 屋、旧金津憲 太郎桶店	町家スタッフが高田の町家の魅力について説明します。	市文化振興課 Tel.025-526-6903
市民親善ゴルフ大 会	9月25日(日)	市内及び近隣 のゴルフ場	市内や近隣の7つのゴルフ場で、約600人が参加するゴルフ大会。夕方には1つの会場で表彰式とパーティーを行い、ゴルフ愛好者の交流を図ります。	事務局(一般財団 法人上越市体育協 会) Tel.025-525-4119
鵜の浜温泉軽トラ 市	9月25日(日)	大潟区・頸城 自動車駐車場	地元の新鮮な魚や野菜など多くの商品をそろえて、軽トラック等に載せて販売する鵜の浜温泉で開催される市。	大潟観光協会 Tel.025-534-4465
吉川観光協会長 杯争奪パラグライ ダー大会	9月25日(日)	吉川区・尾神 岳	尾神岳エリアを利用しているフライヤーを中心とした地元観光協会主催のパラグライダー大会です。紙ヒコーキを飛ばす会も行います。	スカイピア遊ラ ンド Tel.025-547-2221

10月



企画展「原三溪と 小林古径」ギャラ リートーク	10月1日 (土)・22日 (土)	小林古径邸画 室	企画展「原三溪と小林古径」の開催に伴い、学芸員が展示作品等について解説します。	小林古径記念美術 館 Tel.025-523-8680
新幹線開業 4年前カウントダウ ン イベント	10月1日(土) ～23日(日)	直江津駅 本町3・4・5丁 目商店街等	信越本線開業125周年記念SLの運行、高田城下町花ロード、越後・謙信SAKEまつりに併せて、新幹線開業のPR等を行う、新幹線開業4年前カウントダウンイベントを開催します。	新幹線まちづくり推 進上越広域連携会 議事務局(市新幹 線・交通政策課内) Tel.025-526-5111
小川未明文学館 特別展	10月1日(土) ～11月6日 (日)	小川未明文学 館	童画家たちによる挿絵、装幀を通じて、子どもの暮らしを彩った未明童話を紹介します。	市文化振興課 Tel.025-526-6903
旅芝居劇団公演	10月1日(土) ～11月29日 (火)	安塚区・雪だ るま温泉	劇団(風美劇団、みやま劇団)による公演を行います。	キュービットパレ イ Tel.025-593-2041

芋煮会	10月2日(日)	柿崎総合体育館周辺	スポーツフェスティバルと同時に開催されるイベント。大きな鍋で150食分の芋煮を作り、販売します。	柿崎観光協会 TEL025-536-6712
越後よしかわ酒まつり	10月2日(日)	道の駅よしかわ杜氏の郷	全国200銘酒きき酒会、特産物品試飲会、ステージイベントのほか、お祭り広場、商工・農産物などの出店を設けます。	吉川区総合事務所 TEL025-548-2311
第28回中郷観光協会会長杯ゴルフ大会	10月2日(日)	妙高サンシャインゴルフ倶楽部	中郷区の主要観光施設であるゴルフ場で、市内外からの参加者を募り開催するゴルフ大会。夕方には表彰式とパーティーを行い、交流を図ります。	中郷観光協会事務局 TEL0255-74-2692
くびき牛炭火焼フェアー	10月2日(日) (予定)	牧区・牧ふるさと村自然と憩の森	自然豊かな牧区で肥育された和牛を炭火焼きで堪能していただける恒例のイベントです。	NPO法人牧振興会 TEL025-533-5151
里山田舎体験『稲刈りと収穫祭』	10月2日(日) (予定)	名区域・不動地区 (水田・不動牧場跡地)	昔ながらの手刈りによる稲刈りや、さつま芋などの畑作物の収穫を行い、収穫の秋を楽しんでいただきます。また、胡桃や栗拾いなど野山の散策もできます。	不動森あげ米かい事務局 久保埜 藤一 TEL025-538-2432
第41回上越市美術展覧会	10月2日(日)～10日 (月)祝	上越市教育プラザ体育館	日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸、書道、写真、平面デザインの7部門の公募作品を展示します。	市生涯学習推進課 TEL025-545-9245
小林古径邸秋の夕さり茶会	10月7日(金)	小林古径邸	夕方から夜にかけて小林古径邸本邸で茶席を設えます。また、画室では琴の演奏を行います。	小林古径記念美術館 TEL025-523-8680
おめかしするまち第13回城下町高田花ロード	10月8日(土)～10日 (月)祝	高田地区市街地一帯	見どころは、秋の城下町を彩る花とアートの公募作品の数々。今年のテーマは「ファッション」、「食」、「花」。歴史的建造物である旧第四銀行高田支店を中心に公募作品の展示、山カフェ、花カフェ、オープンガーデン、スタンプラリーなど、この他にもイベントが盛りだくさんです。	城下町高田花ロード実行委員会(本町4丁目商店街振興組合) TEL025-523-2517 ホームページ http://hanaroad.honcho.jp/
越後高田町家三味秋ノ巻	10月8日(土)～10日 (月)祝	町家交流館高田小町、旧今井染物屋、旧金津憲太郎補店ほか	城下町高田花ロードに合わせて、江戸時代の旧家から昭和初期の商店まで、日本一の雁木通りを散策しながら町家の魅力を楽しむイベントを開催します。	市文化振興課 TEL025-526-6903
第7回くびきチャレンジスポーツフェスティバル	10月8日(土)～16日(日) (予定)	ユートピアくびきを中心とした頸城区内スポーツ施設及び小中学校体育館	少女バレーボール大会、種目別スポーツ大会、キンボール大会、ピックフット大会、スマイルボウリング大会、チャレンジウィークなど行います。	NPO法人ユートピアくびきスポーツクラブ TEL025-530-2310
花ときのこの秋まつり	10月9日(日)	安塚区・石橋地内	100万本の柳葉ひまわりが色鮮やかに咲く中で行なう石橋町内会主催の秋祭り。芸能発表やたくさんの屋台が並びます。	NPO雪のふるさと安塚 TEL025-592-2004
姉妹都市と上越市の観光と物産展	10月9日(日)～10日 (月)祝	上越観光物産センター	北は北海道、南は沖縄まで全国各地にある上越市の姉妹都市と上越市内のうんまいもんを会場いっぱい集めた物産展「食欲の秋」においしいものをお腹いっぱい味わってみませんか。この他にも姉妹都市による観光PRをはじめとするイベントもあり、子どもからお年寄りまで楽しめます。	(社)上越観光コンベンション協会 TEL025-543-2777

第33回松ヶ峯トリムマラソン大会	10月10日 (月)祝	中郷区・中郷 総合運動公園	性別、年代別による「競技の部」(5コース、最長10km)、と兼して走る「健康ランニングの部」(2km)を実施。中郷区内における高低差80mの特設コースを使用します。 陸上専門誌「ランナース」に掲載され、県外からの参加もあります。	中郷区体育協会事務局 (はーとびあ中郷内) Tel.0255-74-2338
第3回直江津さかな・やさい祭り	未定(10月上旬に実施される予定)	直江津駅周辺	海の幸・山の幸に恵まれた、この地区ならではの豊かな資源や歴史を生かしたイベント。マグロの解体の実演や直売等を行います。	直江津さかな・やさい祭り実行委員会(上越商工会議所内) Tel.025-522-1185
ふれあいコンサート	10月上旬	大島区・大島 多目的ホール ふれあい館	多種多様なジャンルの演奏家などを招いて行います。	大島音楽協会事務局 (ほくほく大島駅舎内) Tel.025-594-3547
高田歴史回廊 2011 一ふるきをたずねて 新しきを知る一 (仮称)	10月上旬～4 月末まで	(メイン会場) 旧第四銀行高田支店 (サブ会場) 高田城三重櫓 ほか高田市街地周辺	信越線の開通や高田開府300年祭など、各テーマごとに高田地区のまちの移り変わりなどをパネルで紹介する。	市文化振興課 Tel.025-526-6903
第4回森と緑の感謝祭in安塚	10月15日(土)	安塚区・ キュービッドパ レイなど	キュービッドパレイにおいて記念式典・記念植樹を行い、菱ヶ岳周辺の森林整備を実施します。	上越地域森と緑の感謝祭実行委員会事務局(市農林水産整備課) Tel.025-526-5111
水族博物館おまつり広場	10月15日 (土)・16日(日)	水族博物館	ザリガニ釣り、ドクターフィッシュコーナー、フェイスペインティングコーナー、折り紙コーナー、スタンプラリーなどを用意し、お祭りのような雰囲気での参加体験型イベントを実施します。	水族博物館 Tel.025-543-2449
みんなで防災安全 安心まちづくりin上 越2011	10月16日(日)	リージョンプラ ザ上越	記念式典と講演会を行います。	市防災危機管理課 Tel.025-526-5111
信越トレイルレッキング(清里区滝ノ脇～梨平峠～牧峠)	10月16日 (日) (予定)	牧区・牧湯の 里深山荘・信 越トレイル周 辺	紅葉が鮮やかな信越トレイル・梨平峠道から牧峠までの約6.6kmを歩きます。梨平峠道では、樹齢400～500年の太いブナが見られます。 トレイル終了後深山荘で入浴・休憩ができます。(昼食付)	牧湯の里深山荘 Tel.025-533-6785
新米まつり	10月中旬予 定	安塚区・道の 駅雪だるま物 産館	新米コシヒカリの販売や新米もちでの餅つき、お米の重量あてゲームなどを行います。	雪だるま物産館 Tel.025-595-1010
光ヶ原で満天の星 を見よう。	10月22日(土)	板倉区・板倉 保養センター (やすらぎ荘)	光ヶ原で星空を見るツアーです。星空を見ながら、月見弁当を食べませんか。	板倉保養センター (やすらぎ荘) Tel.0255-78-4833
越後・謙信SAKEまつり2011	10月22日(土) 10月23日(日)	本町3・4・5丁 目商店街	市内15及び妙高市3の酒蔵で造られる日本酒を始め、ワイン、どぶろく等のSAKEを一堂に集めて試飲・販売を行います。1000円で試飲グラスを購入すると、18酒造、ワインの試飲が可能。また、地元旬の食材を利用した「食」のブースも多数出展。特設ステージでは頸城杜氏伝統の酒づくり唄の披露や謙信公武士行列等も行い、上越の酒と酒文化が堪能できるイベントです。	越後・謙信SAKEまつり実行委員会(市産業振興課内) Tel.025-526-5111
第2回さかな・やさい祭り	越後・謙信 SAKEまつりに あわせて1 日以上	本町商店街歩 行者天国内	越後・謙信SAKEまつりにあわせ、イベント会場内で新鮮な海の幸・山の幸をいかしたマグロの解体の実演や直売等を行います。	上越商工会議所 Tel.025-525-1185

町家見学会	10月22日 (土)・23日(日)	旧今井染物 屋、旧金津憲 太郎桶店	町家スタッフが高田の町家の魅力について 説明します。	市文化振興課 ℡025-526-6903
新潟県知事杯争 奪尾神岳スカイグ ランプリ(PG大会)	10月22日 (土)・23日(日)	吉川区・尾神 岳エリア	レースtoゴールやスピードランを行う、ジャ パンリーグ対象大会です。	吉川区総合事務所 教育・文化グルー プ ℡025-548-2311
第41回上越市民 芸能祭「民謡・郷 土芸能のつどい」	10月23日(日)	上越文化会館 大ホール	上越市内の民謡・郷土芸能の団体が、唄や 踊り、上越地方の郷土芸能を披露します。	市生涯学習推進課 ℡025-545-9245
信越トレイル「色づ く森の散策会」	10月23日(日)	信越トレイル	紅葉のブナ森や落葉に敷き詰められたコス スを、足からも体感していただくレッキング の散策会です。 やすらぎ荘～柄山口～久々野峠～鍋倉山 ～仏ヶ峰～戸狩～やすらぎ荘	板倉保養センター (やすらぎ荘) ℡0255-78-4833
小林古径記念美 術館伝統文化体 験講座 和～くしよっぶ、遊 んでアート！⑤ 「ピカピカ泥団子を 作ろう！」	10月23日 (日)	小林古径邸画 室	日本の伝統文化を体験する6つの講座を行 います。5回目は左官技術を基にして、ピカ ピカ光る泥団子を作ります。 対象：小学生(先着30人) 講師：松木憲司氏(左官仕事人)	小林古径記念美術 館 ℡025-523-8680
平成23年度 上越市シニア作品 展	10月27日(木) ～30日(日)	市民プラザ	60歳以上のシニア世代の趣味活動の成果 を一堂に集めた作品展を開催し、広く市民 の敬老意識の高揚を図るとともに創作活 動の奨励と生きがいづくり推進を図ります。 水墨画、絵画、書道、盆栽、編物、陶芸など 例年500点以上の作品を展示しています。	市高齢者支援課 ℡025-526-5111
2011ROUTE日本 海～太平洋シンポ ジウム	10月28日(金)	リージョンプラ ザ上越	歴史や風土の異なる新潟・長野・山梨・静 岡の4県を高速道路で結び、新たな地域連 携軸の形成を目指す中部日本横断自動車 道(中部横断自動車道・上信越自動車道) の早期実現と沿線市町村の交流を図るた め、広域災害時の高速道路の役割等高速 道路整備に関する講演を行います。	2011ROUTE日本 海～太平洋シンポ ジウム上越実行委 員会事務局 (市都市整備課) ℡025-526-5111
紅葉のスーパー林 道散策ツアー	10月29日(土)	板倉区・板倉 保養センター (やすらぎ荘)	紅葉に色づいたスーパー林道をドライブ・散 策します。 コース：やすらぎ荘～ヨシ八池～ふれあい の森散策～やすらぎ荘	板倉保養センター (やすらぎ荘) ℡0255-78-4833
ガス水道フェア 2011	10月29日 (土)・30日(日)	上越観光物産 センター	ガス水道のPR及びお客様の謝恩を目的に ガス水道機器の展示、特価販売及び子供 向けイベントや試食イベントを実施。	ガス水道局お客様 サービス課営業開 発係 ℡025-522-5514
大島区生涯学習 フェスティバル	10月29日 (土)・30日(日) 9:00～	大島区・多目 的ホールふれ あい館、大島 ゆきわり荘	作品展示コーナー、発表コーナー、体験 コーナーの3部門構成です。10月30日には 大島音楽祭も行われます。	大島区総合事務所 教育・文化グルー プ ℡025-594-3101
くびき野レール パーク特別公開イ ベント	10月29日 (土)・30日(日)	頸城区・旧頸 城鉄道機関庫	軽便主役たちの走行乗車体験や乗車記念 切符発行、コッペル号の方向転換実演のほ か、車両展示・歴史資料館や軽便グッズ販 売、わいわいちびっ子広場、地元特産品の 販売、つきたて久比岐もちの無料振舞い など多彩なイベントが行われます。	NPO法人くびきの おまのこす会 事務局長 山田一 夫 ℡025-530-2573

上越菊まつり	10月29日(土) ～11月6日 (日)	上越市福祉交 流プラザ体育 館	上越市の秋を彩る風物詩として親しまれて いるイベント。丹精に育てられたさまざまな 菊を展示しています。	上越菊まつり実行 委員会事務局(市 観光振興課) TEL025-526-5111 (社)上越観光コン ベンション協会 TEL025-543-2777
第41回上越市民 芸能祭「謡曲・仕 舞・詩吟・剣舞・三 曲・日舞のつどい」	10月30日(日)	リージョンプラ ザ上越コン サートホール	上越市内の謡曲・仕舞・詩吟・剣舞・三曲・ 日舞の団体が、日本の伝統芸能を披露しま す。	市生涯学習推進課 TEL025-545-9245
新潟県知事杯争 奪尾神岳スカイグ ランプリ(HG大会)	10月30日(日)	吉川区・尾神 岳エリア	ハンググライダーによる競技を行います。	吉川区総合事務所 教育・文化グルー プ TEL025-548-2311
菱里(ひしさと) そばまつり	10月下旬(予 定)	安塚区・道の 駅雪だるま物 産館	菱里(ひしさと)地区の皆さんが開催するそ ばまつりです。	安塚区総合事務所 TEL025-592-2003
吉川区生涯学習 フェスティバル	10月下旬又は 11月上旬	吉川体育館周 辺	区内生涯学習団体や保育園、小中学校、一 般市民の文化活動の成果の発表や展示、体 験教室等を行います。 ○文化展、芸能発表会、まなびい広場(体 験教室)	吉川区総合事務所 教育文化グルー プ TEL025-548-2311
朝市感謝祭	10月(予定)	各朝市会場 (大町3・4・5、 中央2・3、柿崎 区第3・4区)	青果、塩乾物等の特売、小学生の皆さんが 育てた野菜の販売を行う予定です。	市観光振興課 TEL025-526-5111

11月



正善寺工房収穫 祭	11月3日 (木)(祝)	正善寺工房	秋の味覚を満喫していただくため、収穫祭 を開催します。地元の秋野菜や惣菜の販 売、新米を使った餅つき、芋煮汁の販売、 各種ミニイベントを行います。	市農業政策課 TEL025-526-5111
名立駅伝競走大 会	11月3日 (木)(祝)	名立区一円	秋空の下、名立川に沿った15.8kmのコース を、6人の走者でタスキを繋ぎます。 下り一辺倒のスピードレースに参加してみ ませんか。	名立体育協会事務 局 (名立区総合事務 所内) TEL025-537-2182

牧っこ秋まつり	11月3日 (木)祝 (予定)	牧区・牧地区 公民館前広場	毎年恒例の秋まつり。住民による美味しい 出店や地域の特性を活かした参加型ゲー ムを行い、秋の一日を楽しんでいただけま す。	NPO法人牧振興 会 ℓ025-533-5151
くびき文化祭	11月3日 (木)祝～6日 (日) (予定)	頸城区・ユート ピアくびき希望 館	文化芸能発表会、学習成果発表会、作品 展、区内小学校発表会、中学校音楽祭など を行います。	くびき文化祭実行 委員会(希望館内) ℓ025-530-2360
板倉ふれあいまつ り	11月5日(土)・ 6日(日)	板倉区・農村 環境改善セン ター	「暮らし」「学び」「遊・食」に分かれ活動組織 の発表や即売会、友好都市の宮古島市か らの物産販売や芸能披露などが行われま す。	板倉まちづくり振興 会 ℓ0255-78-2141
イルミネーションin 輪の浜温泉	11月5日(土) ～12月25日 (日)	大潟区・輪の 浜温泉街	輪の浜人魚館前の自然公園をメイン会場 に、温泉街の宿などの玄関前をイルミネー ションで飾ります。	大潟観光協会 ℓ025-534-4465
わくわくフェア23 親子で遊ぼう!	11月6日(日)	市民プラザ	親子でいろいろ楽しめる6つのコーナーや 保育ルーム、子育て&入園相談室もあり、 楽しく遊べるイベントです。	春日保育園 高島 文字 ℓ025-524-1404
雪恋まつり	11月6日(日)	安塚区・ キュービッドパ レイスキー場	スキーシーズンが待ち遠しい皆さんへシ ーズン券の販売や大抽選会。スキーシ ーズンのランチメニューの一早い試食も楽しめ ます。 ※東頸城の新そばまつりも同日開催。	キュービッドパレ イ ℓ025-593-2041
農林水産業フェス ティバル 夢大地おおがた 2011	11月6日(日)	大潟区・JAえ ちご上越大潟 地区カントリー エレベーター 前	農作物等の即売やもちつき大会、おにぎ り、もちの試食など各種イベントを実施し ます。	大潟区総合事務所 産業建設グループ ℓ025-534-6803
新そばまつり	11月上旬	吉川区・見は らし荘	新そばの試食、野菜など秋の味覚の直売。 スーパースライダーが半額で楽しめます。	スカイピア遊ラン ド ℓ025-547-2221
寺野だいごぜまつ り	11月上旬	板倉区・板倉 保養センター (やすらぎ荘)	寺野地区全体が参加する収穫祭、当日は だいごぜ汁(大根汁)のサービスやプロ& 地域グループによるアトラクション、屋台で の地元特産品や秋野菜の販売等で盛り上 がっています。	板倉保養センター (やすらぎ荘) ℓ0255-78-4833
きのこまつり(予 定)	11月上旬(予 定)	安塚区・道の 駅雪だるま物 産館	採れたてのきのこの販売やきのこの汁を販売 します。	雪だるま物産館 ℓ025-595-1010
上越市教育コラボ 2011	11月12日(土)	リージョンプラ ザ上越、上越 科学館、教育 プラザほか	市民ぐるみで教育の振興を図るため、市 民団体との連携で、体験、講演会、ワー クショップなどを行い、上越市の教育の取組 を紹介します。また、教育関係者向けの上 越カリキュラム等の教育実践研究の発表、 パネルディスカッションなどを行います。	市教育総務課 025-545-9243
文ノ山歴史探訪	11月12日(土)	板倉区・板倉 保養センター (やすらぎ荘)	文ノ山を地元の案内人と一緒に歴史に触 れながら散策します。	板倉保養センター (やすらぎ荘) ℓ0255-78-4833
新そばまつり	11月12日(土) ～23日 (水)祝	板倉区・板倉 そば打ち体験 交流施設いた くら亭	今年採りたての香ばしい新そばを召し上 がっていただくイベントです。	糸しの里記念館 ℓ0255-81-4541 板倉そば打ち体験 交流施設いたくら 亭 ℓ0255-81-4720

上越市の施設

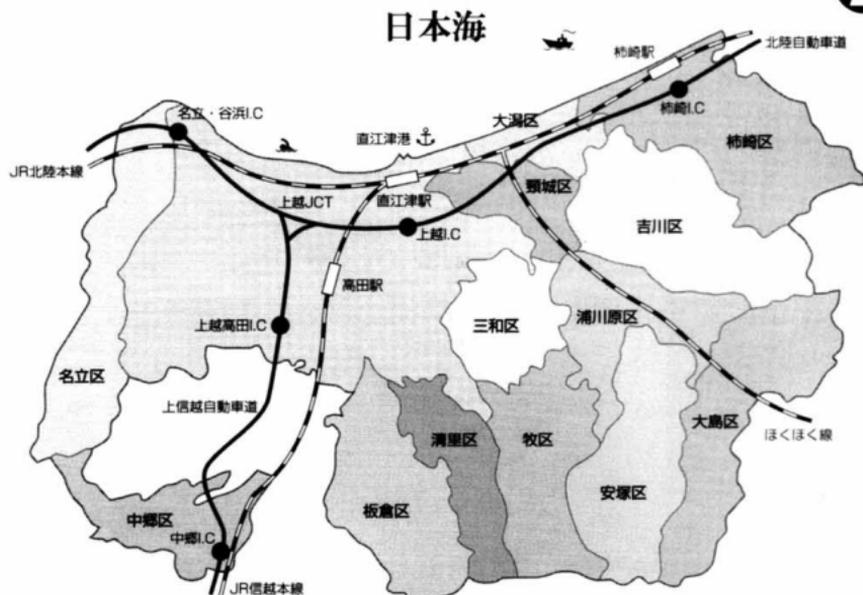
上越市の施設を割引で利用できます。利用の際には
会員証を提示してください。



施設名	住所	電話番号	料金（一般・個人料金）	Jネット料金（一般・個人料金）
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナの貸靴料を除く)	下門前446-2	025-544-2122	レジャープール 400円 アイスアリーナ 800円 インドアスタジアム 100円 市民プール 300円	レジャープール 200円 アイスアリーナ 400円 インドアスタジアム 50円 市民プール 150円
高田城三重櫓	本城町6-1	025-526-5915	200円	100円
日本スキー発祥記念館	大貫1453-1	025-523-3766	300円	150円
坂口記念館	頸城区鶴ノ木148	025-530-3100	200円	100円
くろみ家族園	東中島2487	025-544-7440	浴場400円	浴場200円
市民いこいの家	石橋1-1-3	025-545-5270	浴場250円	浴場120円
金谷山スキーリフト スノーボブスレー	大貫595-2	025-525-4295	リフト100円 ボブスレー100円	リフト50円 ボブスレー50円
蒲川原霧ヶ岳温泉ゆあみ	蒲川原区小谷島1217-1	025-599-3810	500円	250円
吉川緑地等利用施設	吉川区尾神588-1	025-547-2545	スライダー400円	スライダー200円
吉川スカイトピア遊ランド	吉川区坪野1458-2	025-547-2221	入館料(入浴)400円	入館料(入浴)200円
三和米と酒の謎蔵	三和区大867-1	025-532-4189	300円	150円
シーサイドパーク名立	名立区名立小泊798-1	025-537-2121	ビッグボブスレー200円	ビッグボブスレー100円
海洋フィッシングセンター (えさ代を除く)	虫生岩戸719地先	025-544-2475	使用料100円 貸し竿200円	使用料50円 貸し竿100円
上越科学館	下門前446-2	025-544-2122	400円（特別展期間は600円）	200円（特別展期間は300円）
かやぶき美術館	安塚区安塚804-4	025-592-2048	300円	150円
上越清里星のふるさと館	清里区青柳3436-2	025-528-7227	入館料300円 プラネタリウム料金300円	入館料150円 プラネタリウム料金150円
水族博物館	西本町4-19-27	025-543-2449	900円(イルカショー期間は1,200円)	450円(イルカショー期間は600円)
総合博物館 小林古径記念美術館	本城町7-7	025-524-3120 (博物館) 025-523-8680 (美術館)	300円	150円
牧歴史民俗資料館	牧区宮口1483-1	025-533-5117	200円	100円
板倉郷土館	板倉区針842-1	025-578-4354	100円	50円
清里歴史民俗資料館	清里区岡野町1580	025-528-3111	100円	50円
小林古径邸	本城町7番1号	025-525-2429	200円	100円



上越市マップ



面積 973.54km² (シンガポールの1.4倍)

人口 208,082人

世帯 69,160世帯

(平成17年国勢調査)

編集後記

昨年に続いて今年の夏も厳しい暑さに見舞われています。更に3月11日の大震災、早い時期での台風襲来、日本列島は大自然の試練に遭って居るようですね。一つ一つ克服して進まなければなりません。

こんな中、Jネットは幾つかの計画を順調に進めてまいりました。1月の文化講演会では越後弁のお話で笑い、春の交流会では高田の桜を堪能して来ました。又5月の総会では、市長さんを始め80名を超える参加を頂き、続く地元のカズさんによる大マジックショウで盛り上がり、懇親会へと盛大に続きました。

会報は16年目、31号になりました。昔とあまり変り映えありませんが、ご一読ください。会報は皆様からの寄稿やご意見で面白いものになります。田舎時代の様子、クラス会、現在の暮らしの様子、ちょっと聞いてほしいお話などお寄せ下さいませんか。

注意しておりますが、誤字や読みにくい文章も多々あると思いますが、できるだけ原文に忠実に掲載しております。素人の編集です、ご容赦ください。

気候不安定の時節、猛暑の夏を迎えようとしております。熱中症などの病にお気をつけてお過ごしください。

運営委員 岡村博己



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局（社会システム株式会社 分室内 東京事務所）
〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂1-16-6 二葉ビル6階-6B号

TEL.03-6415-6277 FAX.03-6415-6299

E-mail:jnet_tokyo@crp.co.jp

URL:<http://www.joetu.gr.jp/>

本庁担当（自治・市民環境部 共生まちづくり課）

〒943-8601

新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-526-5111（内1406） FAX.025-526-8363

E-mail:j-net@city.joetu.lg.jp

【皆様からの情報をお待ちしています】 TEL 03-6415-6277（J ネット事務局）
